

第4回 京都市全員制中学校給食検討会議

日 時：令和5年10月16日（月） 午後2：00～

会 場：職員会館かもがわ 2階 大会議室（第3～5会議室）

会議次第

- 1 アンケート調査結果について
- 2 基本的な考え方素案（実施方式除く）について
- 3 実施方式等を含む調査結果報告書（概要版）について
- 4 その他

《資料》

- 資料1 「全員制中学校給食」に関するアンケート調査結果について
- 資料2 全員制中学校給食の実施に向けた「基本的な考え方」について（素案）
- 資料3 調査結果報告書（概要版）について（株式会社「長大」からの提供資料）

《次回（未定）》

「全員制中学校給食」に関するアンケート調査結果について

1 アンケート調査の目的

子どもたちの健やかな学びと育ちや子育て家庭の支援を目的に、全市での全員制中学校給食の実施に向けて、生徒や保護者、学校のニーズを把握し、今後の検討資料として活用します。

2 実施時期

令和5年8月末～9月

3 各アンケート調査の概要

区分	対象	方法	項目数	期間
生徒	各校で、各学年から任意の1クラスを抽出	Forms (GIGA 端末を活用して校内で実施)	10問程度 (選択制給食実施校 63校)	8/28 (月)～9/20 (水)
保護者	上記生徒の保護者	Forms (スクリレを活用して実施)	5問程度 (施設一体型小中学校 7校)	
学校	中・小中学校	文書処理システム	6問	9/15 (金) 〆

※全市立中・小中 (後期課程) 学校 72 校のうち、別途検討する洛友中と西京附属中を除く 70 校で実施

4 アンケートの内容 (詳細は別紙参照) ※生:生徒、保:保護者、学:学校

- ・小学校のときの給食はどうですか。(生・保)
- ・給食では、食缶方式かランチボックス形式のどちらが良いと思いますか。(生・保)
- ・昼食時間はどれくらい必要だと思いますか (準備片付けを含まない)。(生・保・学)

5 回答状況

区分	回答数			
	1年	2年	3年	計
生徒アンケート	1,916名	1,765名	1,493名	5,174名
保護者アンケート	1,292名	1,065名	863名	3,220名
学校調査	70校			

6 主な集計結果 ※生:生徒、保:保護者、学:学校

(1) 小学校のような給食について (生・保) P.5~8

- ・ 選択制給食実施校では、約79%の生徒が「とても良い」「良い」と答えており、その理由は「おいしいこと38%」が最も多く、次いで「温かいものが食べられること28%」となった。また、約89%の保護者が「とても良い」「良い」と答えており、その理由は「温かいものが食べられること34%」が最も多く、次いで「色々なものが食べれること27%」となった。
- ・ 施設一体型小中学校では、約77%の生徒が「とても良い」「良い」と答えており、その理由は「おいしいこと29%」が最も多く、次いで「みんなと一緒に食べられること26%」となった。また、約88%の保護者が「とても良い」「良い」と答えており、その理由は「色々なものが食べられること33%」が最も多く、次いで「温かいものが食べられること28%」となった。

(2) 食缶方式かランチボックス形式のどちらが良いかについて (生・保) P.11~12

- ・ 選択制給食実施校では、生徒は「どちらでも良い46%」が最も多く、「食缶方式が良い27%」と「ランチボックス方式が良い27%」は同じ割合となった。また、保護者は「食缶方式が良い44%」が最も多く、次いで「どちらでも良い31%」となった。
- ・ 施設一体型小中学校では、生徒は「食缶方式が良い40%」が最も多く、次いで「どちらでも良い36%」となった。また、保護者は「食缶方式が良い69%」が最も多く、次いで「どちらでも良い23%」となった。

(3) 中学校給食で特に大切にすべきと思うことについて (生・保) P.13~P.14

- ・ 選択制給食実施校では、生徒は「栄養バランスの良い献立であること27%」が最も多く、次いで「温かいものであること22%」となった。また、保護者は「栄養バランスの良い献立であること36%」が最も多く、次いで、「安心・安全に提供されること21%」となった。
- ・ 施設一体型小中学校では、生徒は「栄養バランスの良い献立であること34%」が最も多く、次いで、「安心・安全に提供されること23%」となった。また、保護者は「栄養バランスの良い献立であること43%」が最も多く、次いで、「安心・安全に提供されること29%」となった。

(4) 全員制中学校給食への移行で、特に不安に思うこと (生・保) P.15

- ・ 生徒は「苦手な食材や献立が出ないかどうか29%」が最も多く、次いで「昼食時間が十分かどうか26%」となった。また、保護者は「昼食時間が十分かどうか32%」が最も多く、次いで「使用される食材の安全面22%」となった。

(5) 昼食時間について (生・保・学) P.17~P.19

- ・ 準備や片付けを含まない、実際に食べる時間としての昼食時間について、学校調査では、選択制給食実施校の現状の昼食時間は「15分(68%、43校)」、「10分(19%、12校)」の順となった。同じく、施設一体型小中学校では「20分(42%、3校)」、「25分(28%、2校)」の順となった。
- ・ 生徒・保護者については、必要な昼食時間は、ともに「20分間」が最も多く、学校は「15分(47%、33校)」、「20分(43%、30校)」の順となった。

アンケートの集計結果 もくじ

1	主に学校での昼食は何を食べていますか。(生徒) ……………	P. 1
2(1)	現在の「選択制給食」を利用していますか。(生徒・保護者) ……………	P. 2
2(2)	給食を利用する主な理由は何ですか。(生徒・保護者) ……………	P. 3
2(3)	給食を利用しない主な理由は何ですか。(生徒・保護者) ……………	P. 4
3(1)	小学校(小中学校(前期課程))の給食はどうでしたか。(生徒・保護者) ……………	P. 5
3(2)	今(施設一体型小中学校)の給食はどうですか。(生徒・保護者) ……………	P. 6
3(3)	小学校(小中学校(前期課程))のときの給食が良かった主な理由は何ですか。(生徒・保護者) ……………	P. 7
3(4)	今(施設一体型小中学校)の給食が良い主な理由は何ですか。(生徒・保護者) ……………	P. 8
3(5)	小学校(小中学校(前期課程))のときの給食が悪くなかった主な理由は何ですか。(生徒・保護者) ……	P. 9
3(6)	今(施設一体型小中学校)の給食が悪くない主な理由は何ですか。(生徒・保護者) ……………	P. 10
4	給食では、「食缶方式」か「ランチボックス方式」のどちらが良いと思いますか。(生徒・保護者) …	P. 11
5	中学校給食で特に大切にすべきと思うことは何ですか。(生徒・保護者・学校) ……………	P. 13
6(1)	全員制の中学校給食に移行することで特に不安に思うことは何ですか。(生徒・保護者) ……………	P. 15
6(2)	全員制の中学校給食に移行することで懸念する点は何ですか。(学校) ……………	P. 16
7	全員制の中学校給食に移行することで特に良いと思う点は何ですか。(学校) ……………	P. 16
8(1)	昼食時間はどれくらい必要だと思いますか。(生徒・保護者・学校) ……………	P. 17
8(2)	今の昼食時間は何分ですか。(学校) ……………	P. 19
8(3)	全員制での昼食時間はどれくらい必要だと思いますか。(学校) ……………	P. 19
9	中学校給食を通して特に子どもに学んでほしいことは何ですか。(保護者・学校) ……………	P. 20
	(参考資料) 集計表(生徒・保護者) ……………	P. 21
	(参考資料) 集計表(学校) ……………	P. 25

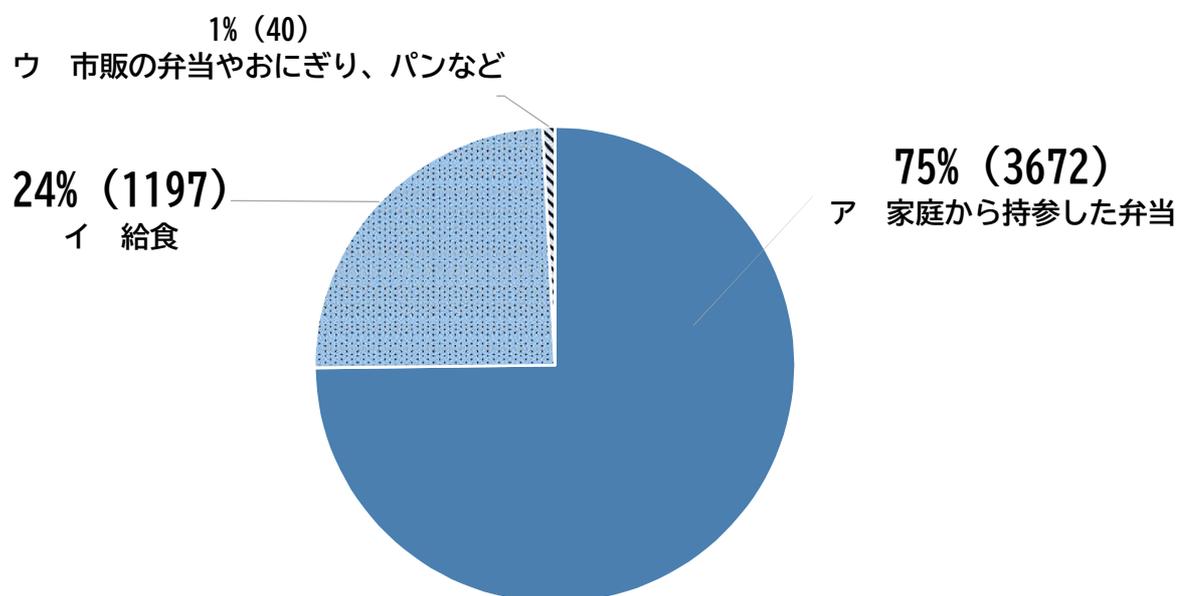
※ 図表の数値は、原則四捨五入しており、合計と一致しない場合がある。

1 主に学校での昼食は何を食べていますか。

(選択制給食実施 63 校)

【図1】

生徒 (N=4,909)

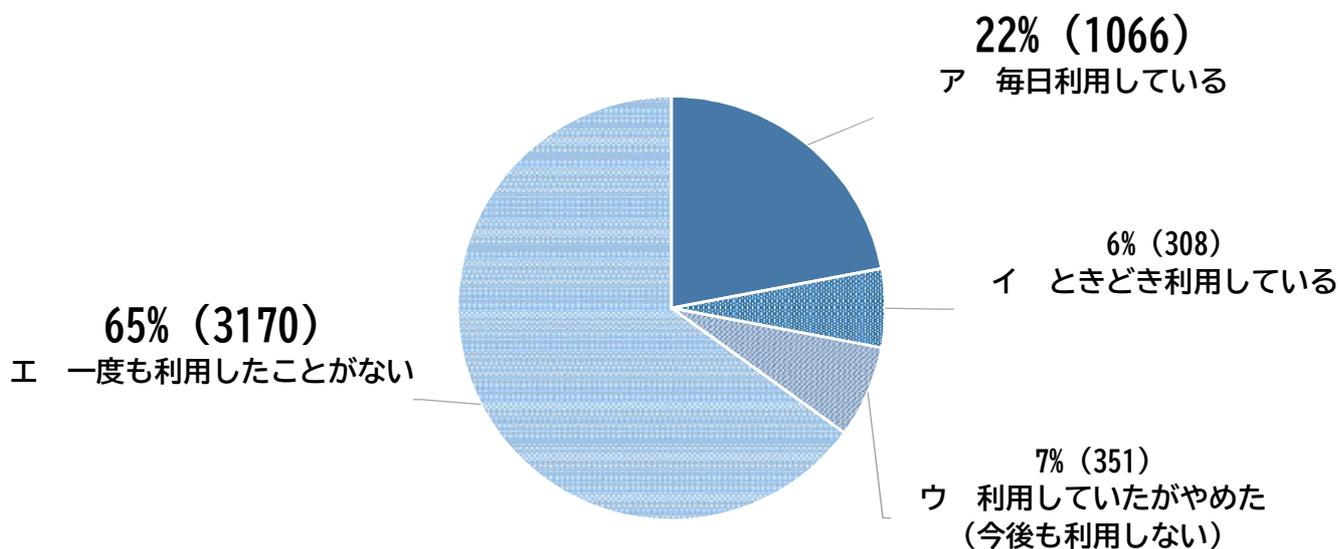


2(1) 現在の「選択制給食」を利用していますか。

(選択制給食実施 63 校)

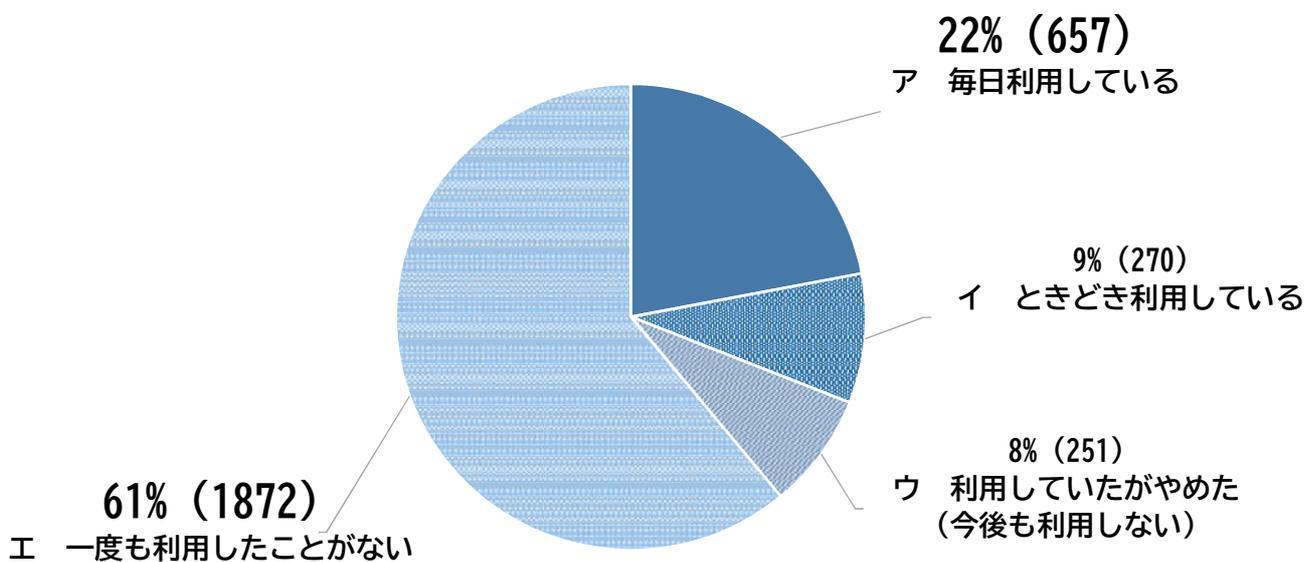
【図2】

生徒 (N=4,895)



【図3】

保護者 (N=3,050)

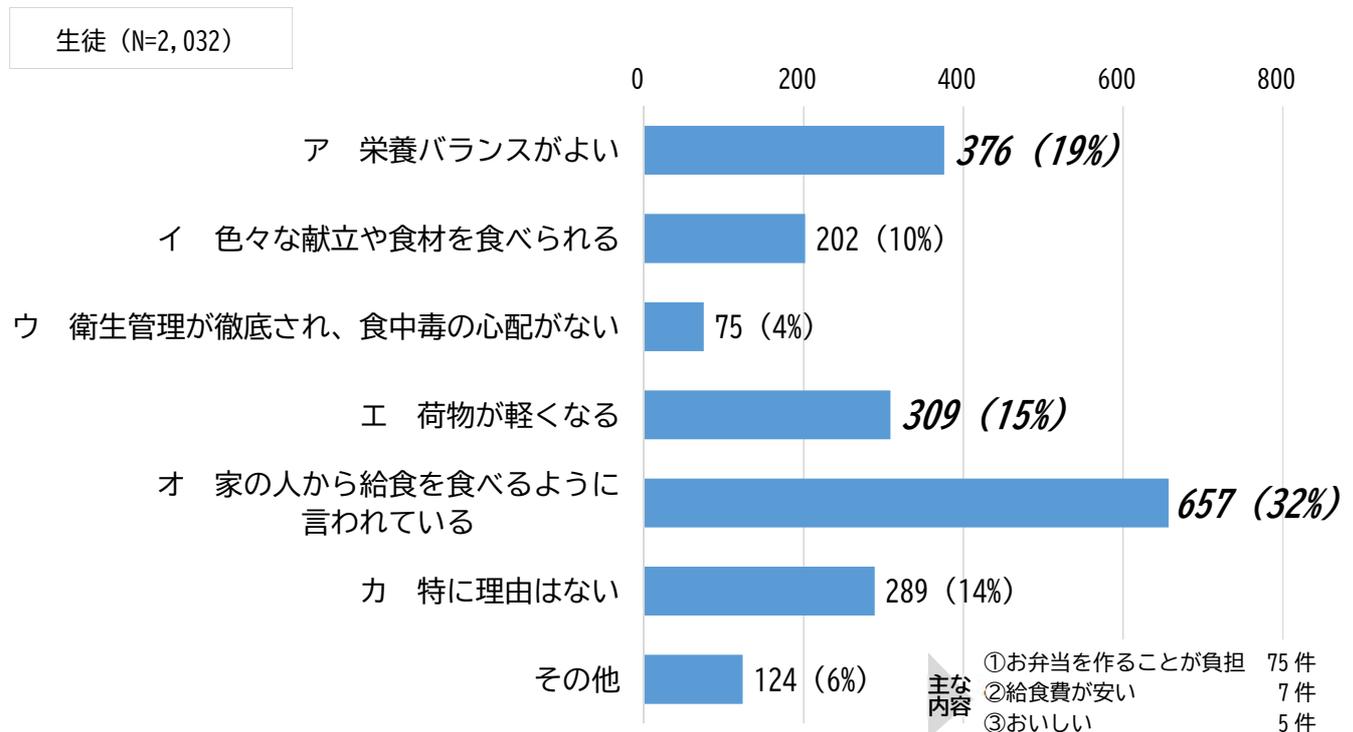


2(2) 給食を利用する主な理由は何ですか。(最大2つまで)

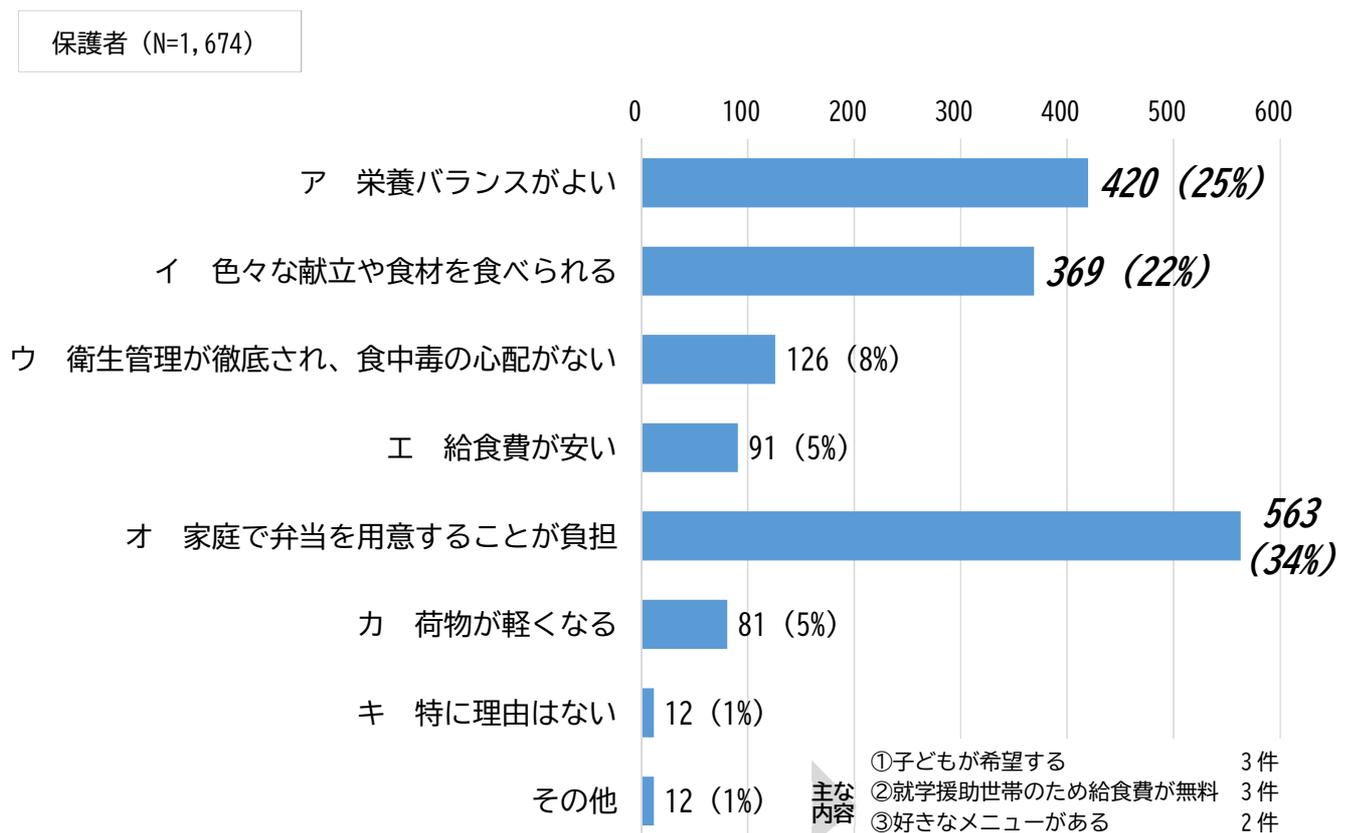
2(1)「ア 毎日利用している」「イ ときどき利用している」回答した方への質問

(選択制給食実施 63 校)

【図4】



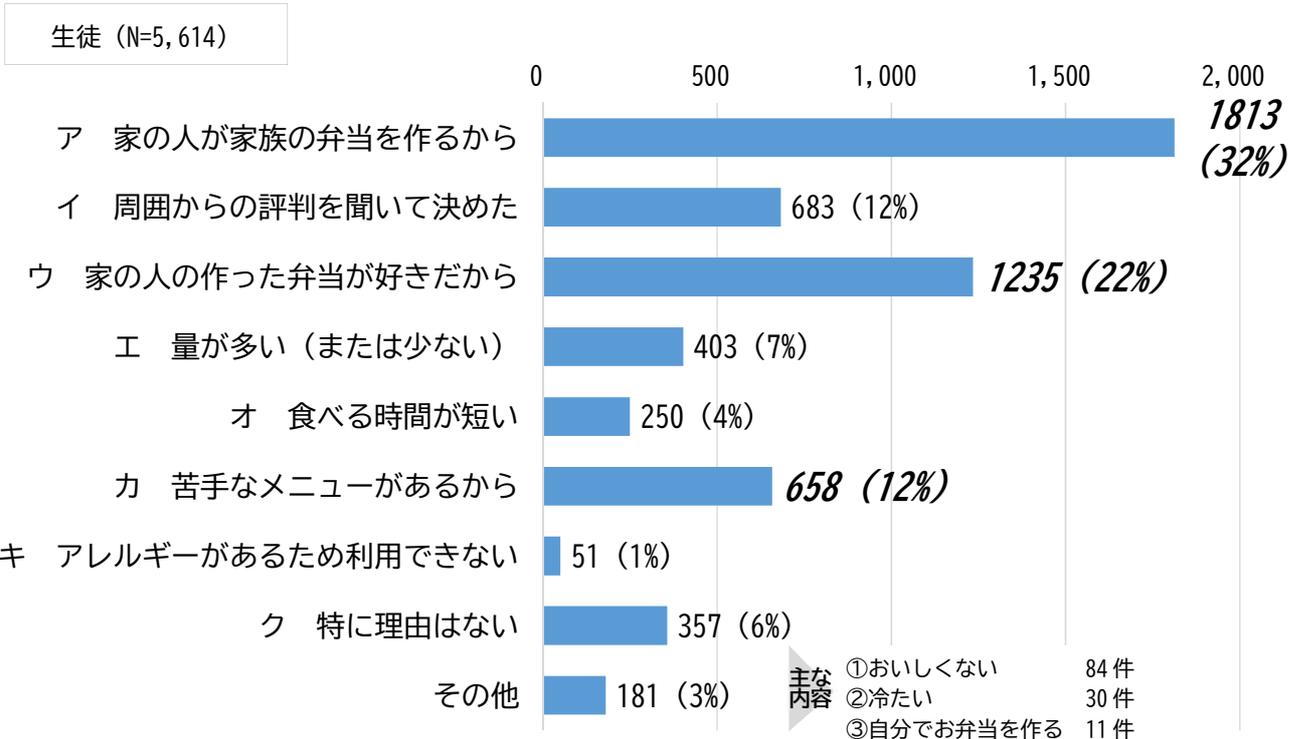
【図5】



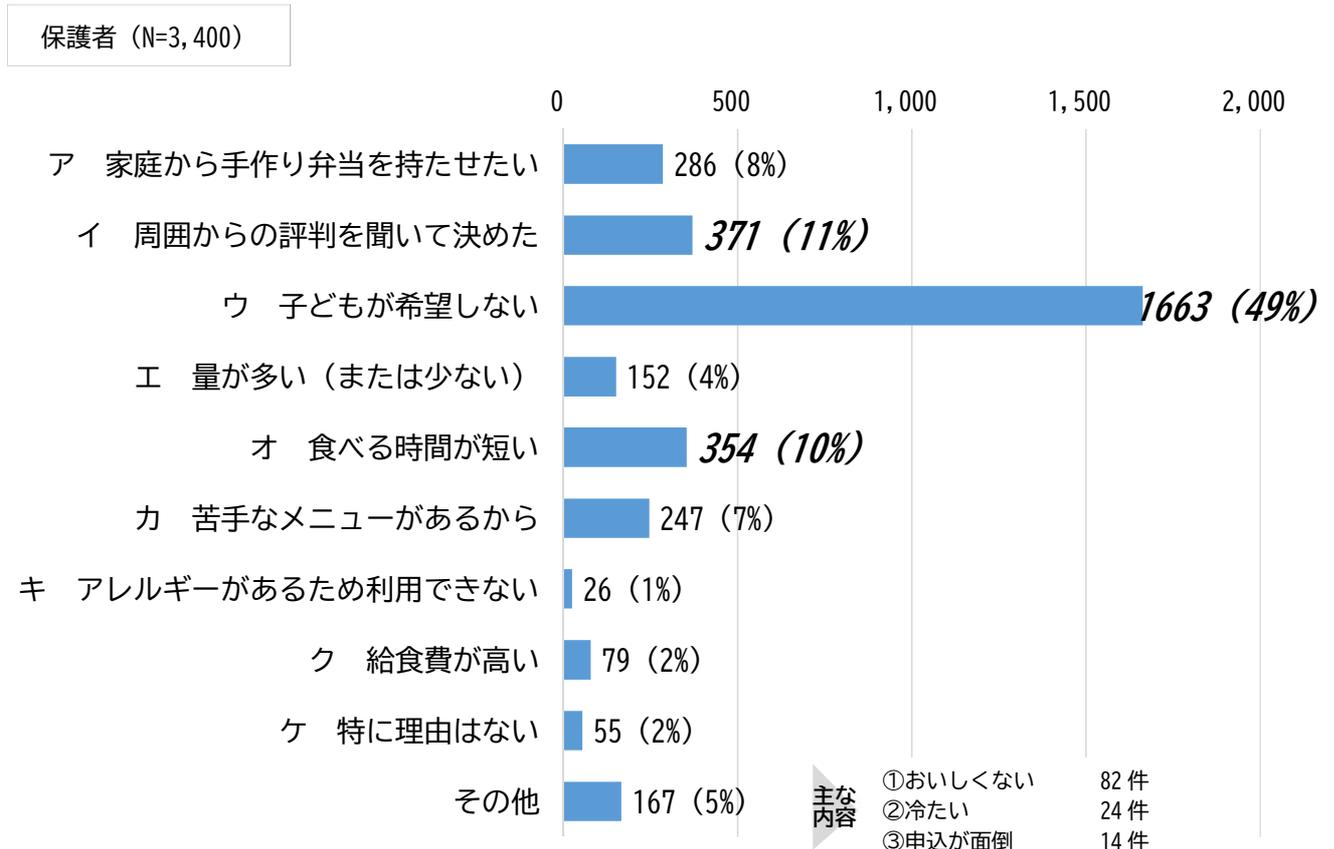
2(3) 給食を利用しない主な理由は何ですか。(最大2つまで)

2「ウ 利用していたがやめた」「エ 一度も利用したことがない」と回答した方への質問 (選択制給食実施 63 校)

【図6】



【図7】

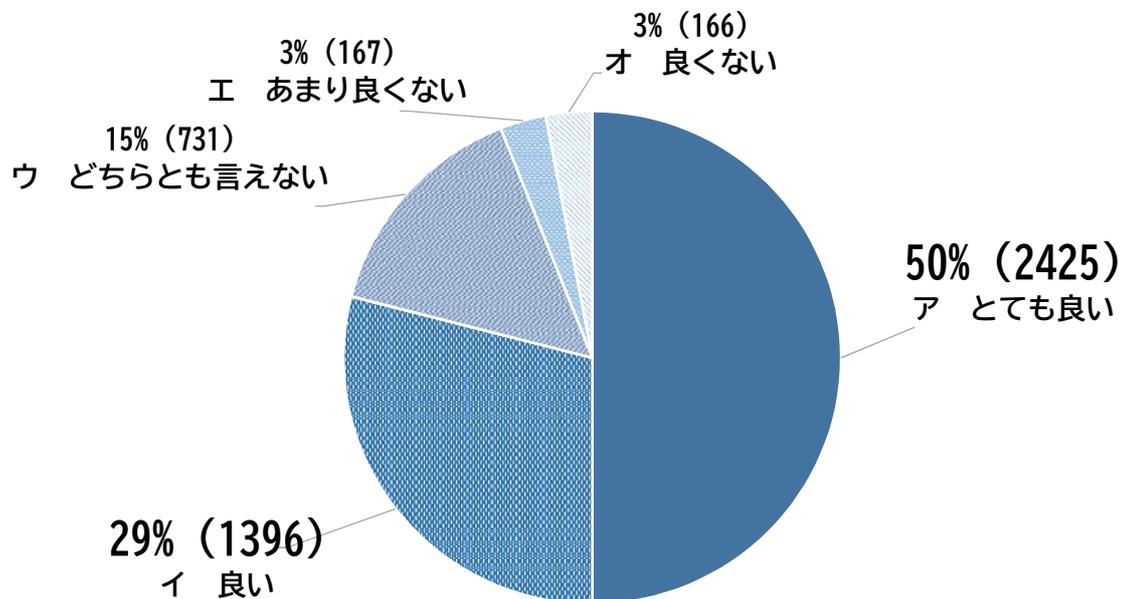


3(1) 小学校（小中学校（前期課程））の給食はどうでしたか。

(選択制給食実施 63 校)

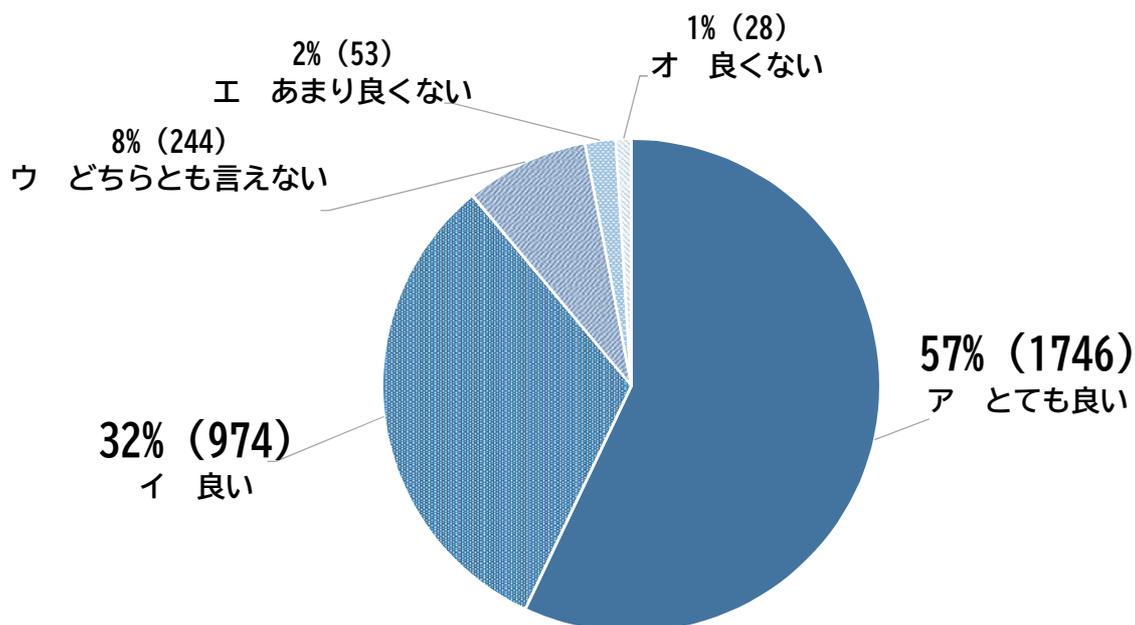
【図8】

生徒 (N=4,885)



【図9】

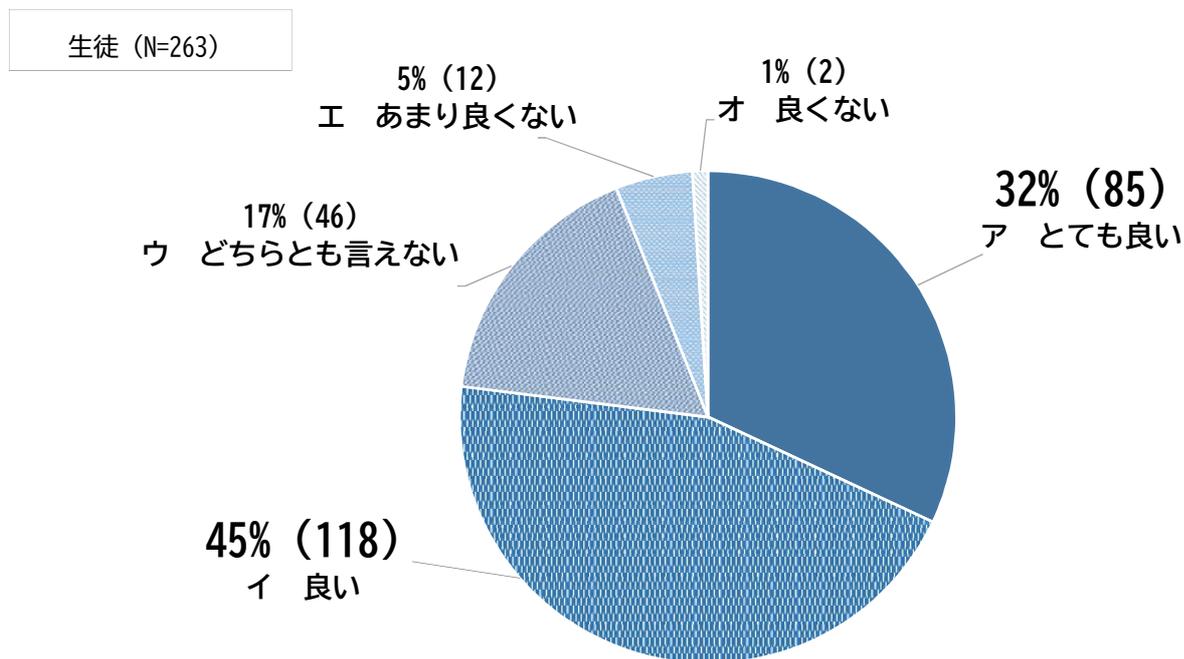
保護者 (N=3,045)



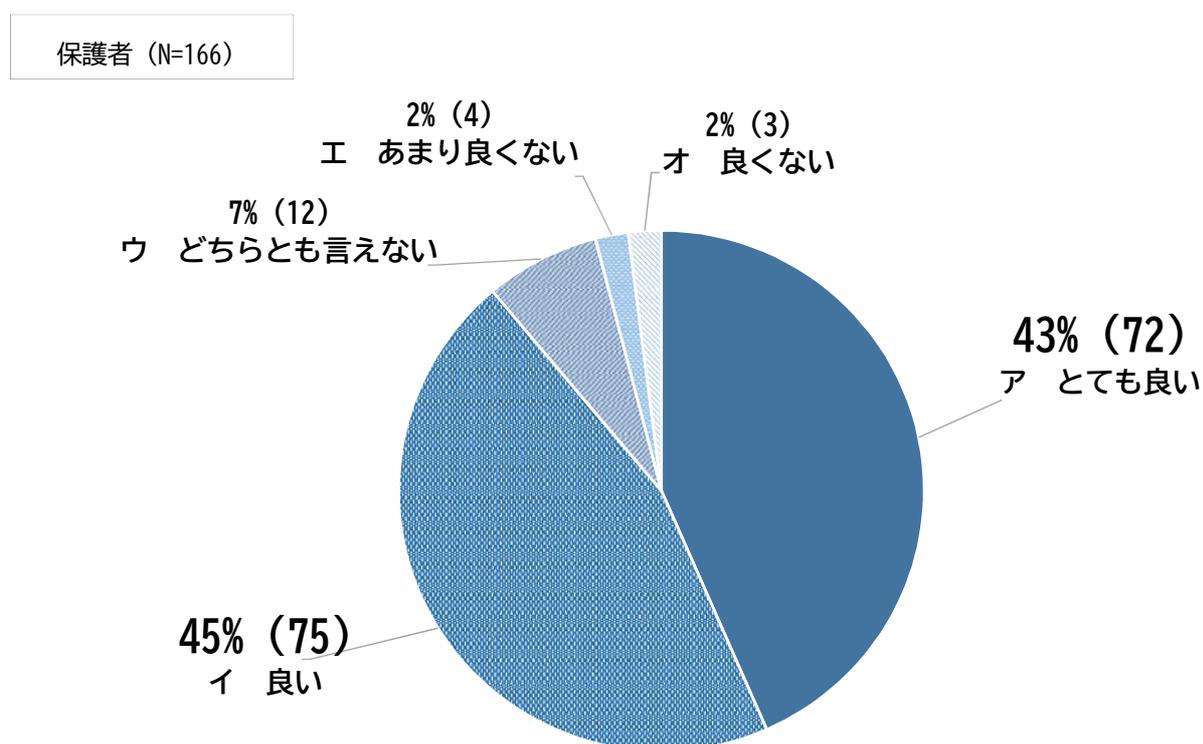
3(2) 今（施設一体型小中学校）の給食はどうか。

(施設一体型小中学校 7校)

【図 10】



【図 11】

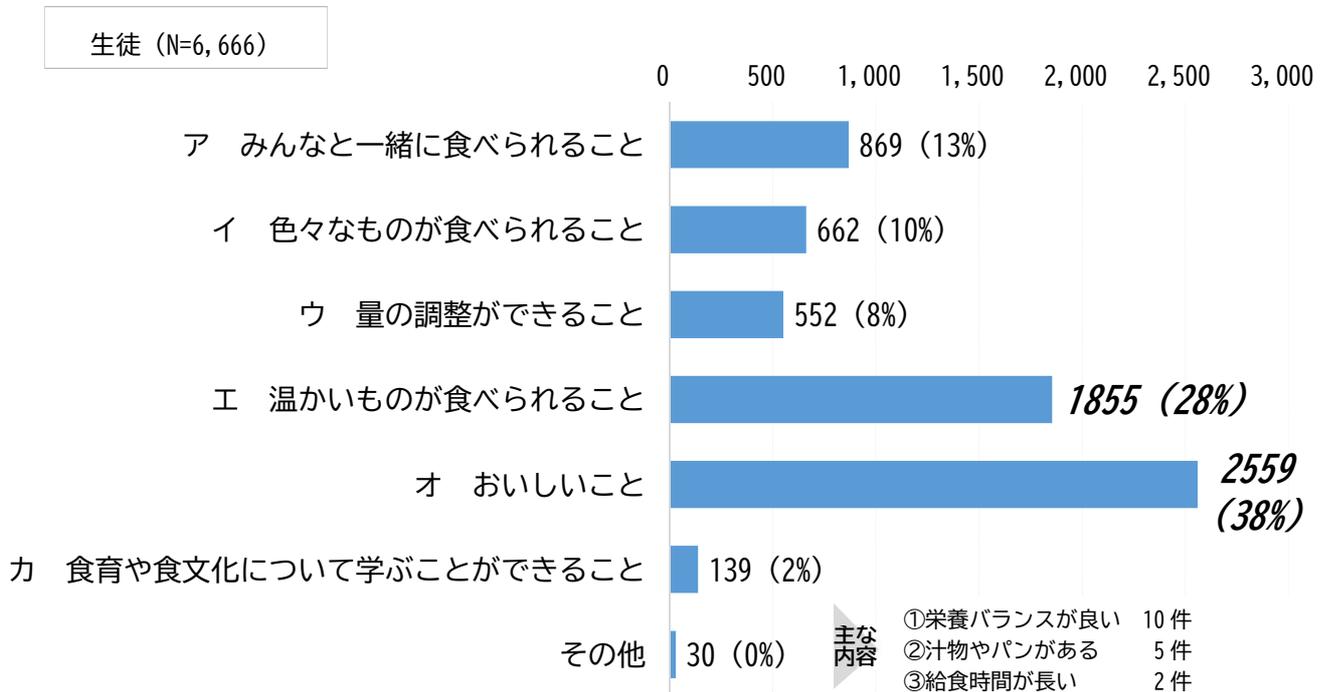


3(3) 小学校（小中学校（前期課程））のときの給食が良かった 主な理由は何ですか。（最大2つまで）

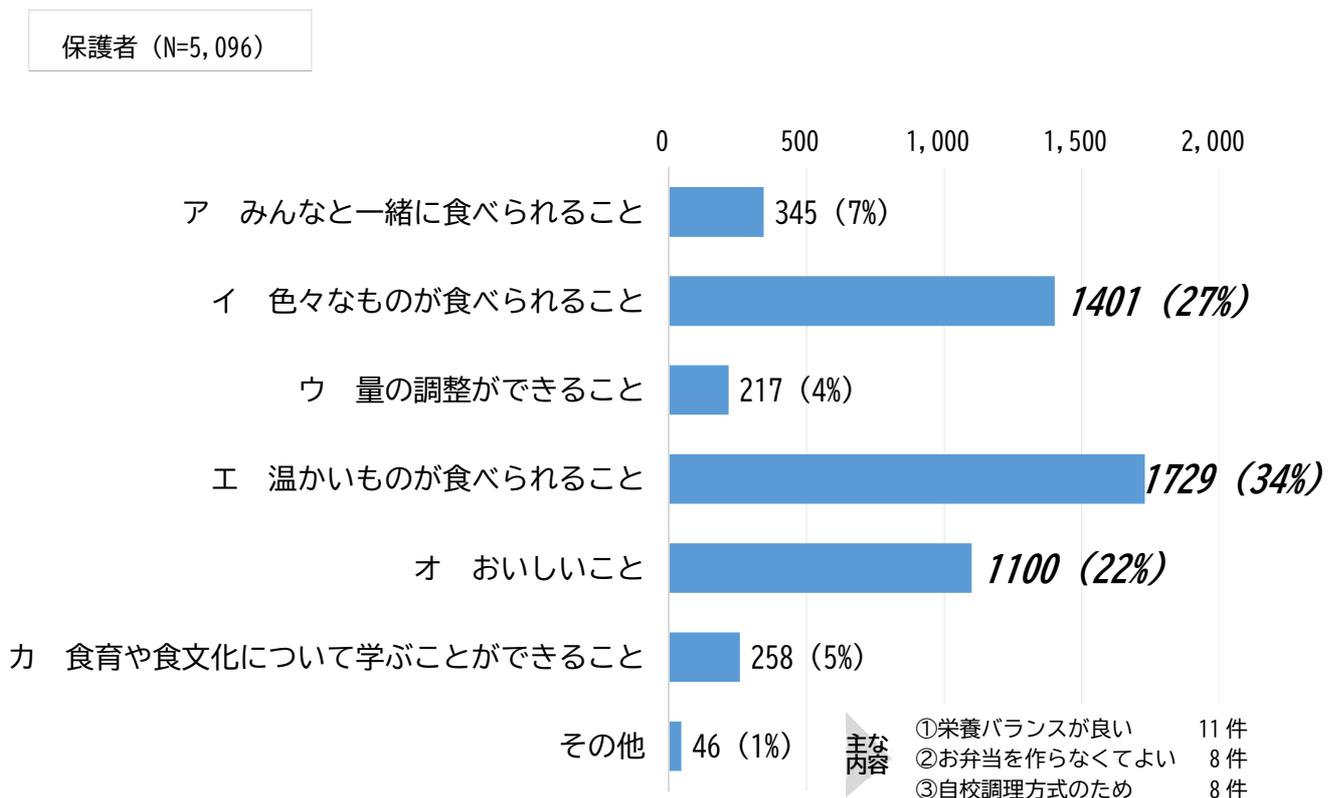
（選択制給食実施 63 校）

3(1)「ア とても良い」「イ 良い」と回答した方への質問

【図 12】



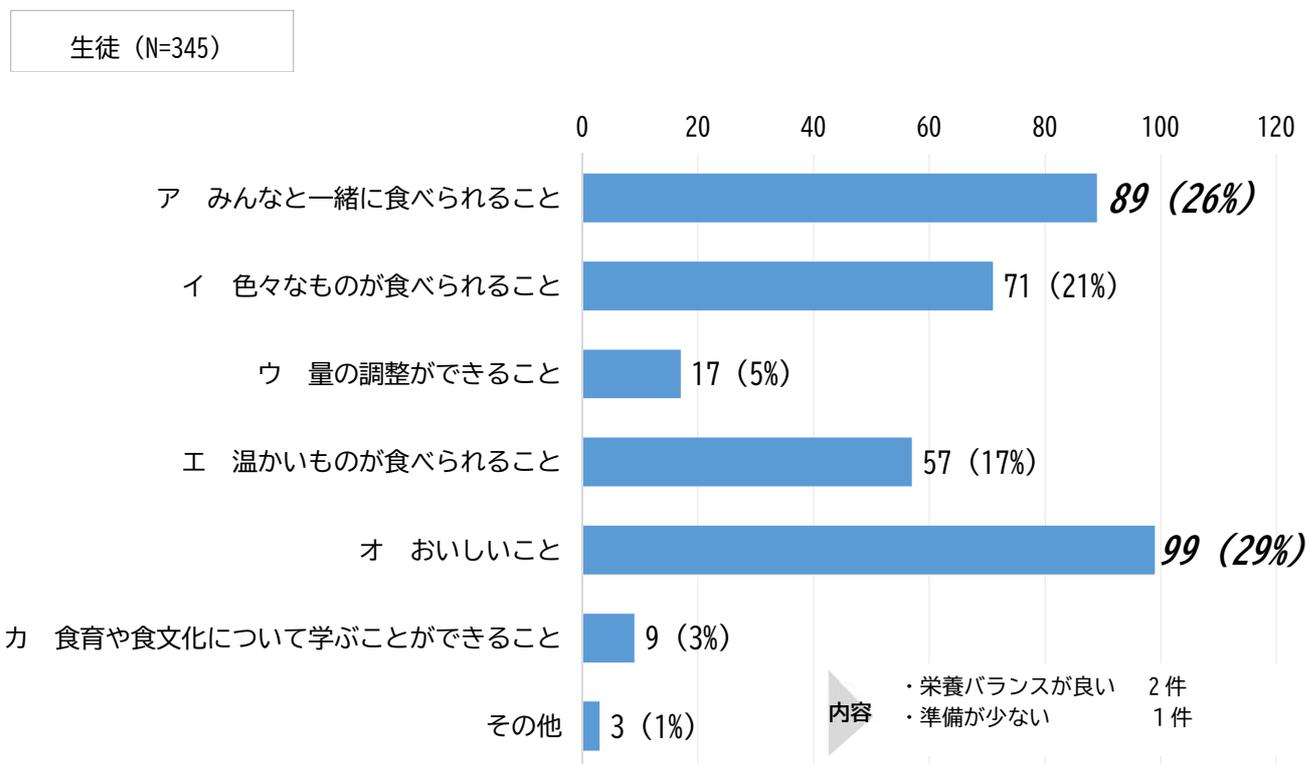
【図 13】



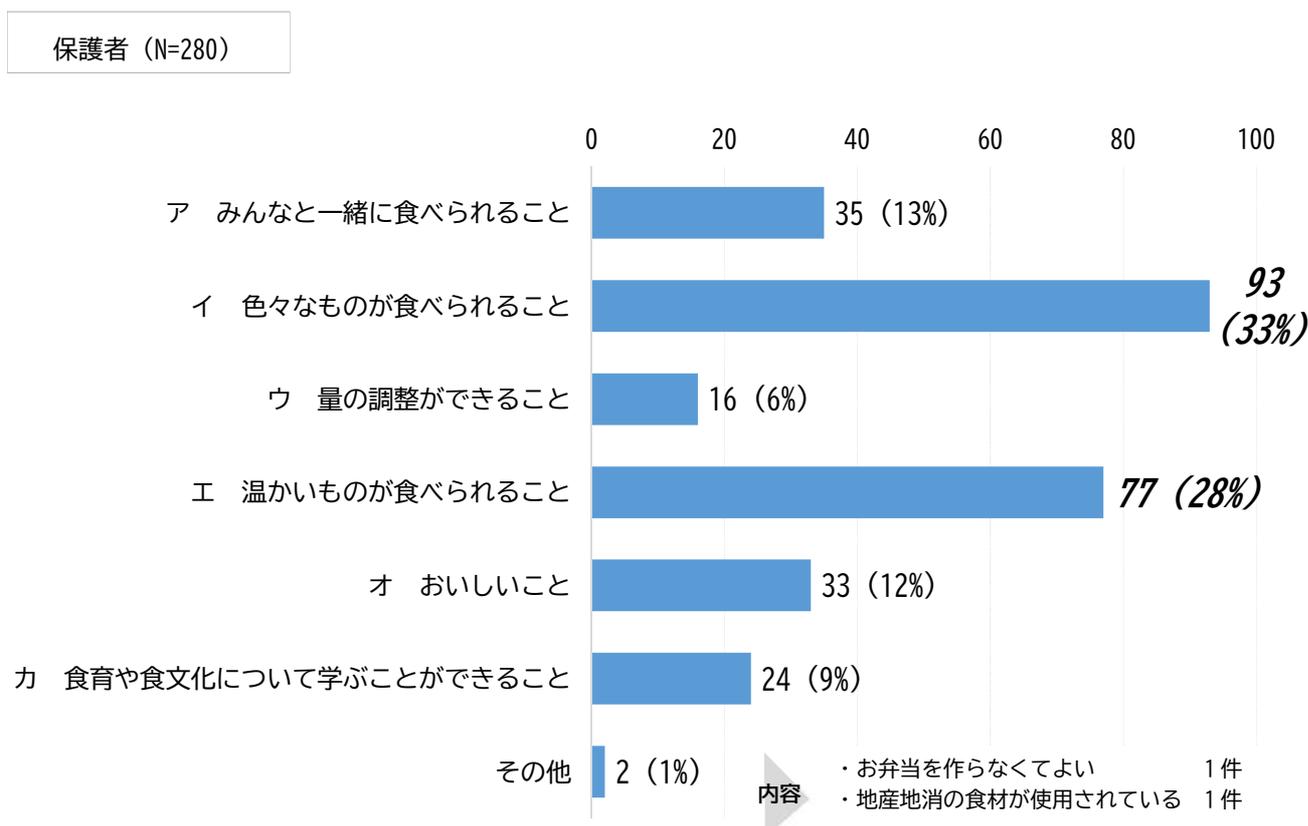
3(4) 今（施設一体型小中学校）の給食が良い主な理由は何か。

(施設一体型小中学校7校)

【図 14】



【図 15】

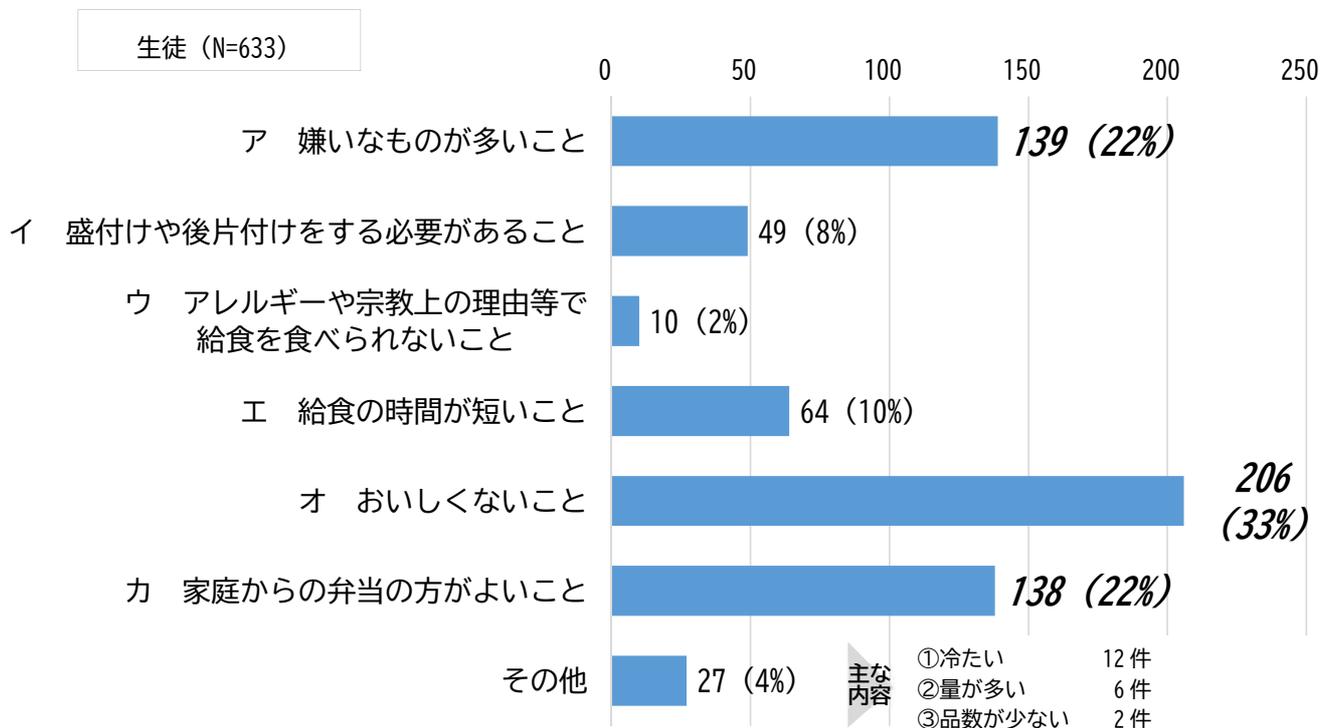


3(5) 小学校（小中学校（前期課程））のときの給食が良くなかった 主な理由は何ですか。（最大2つまで）

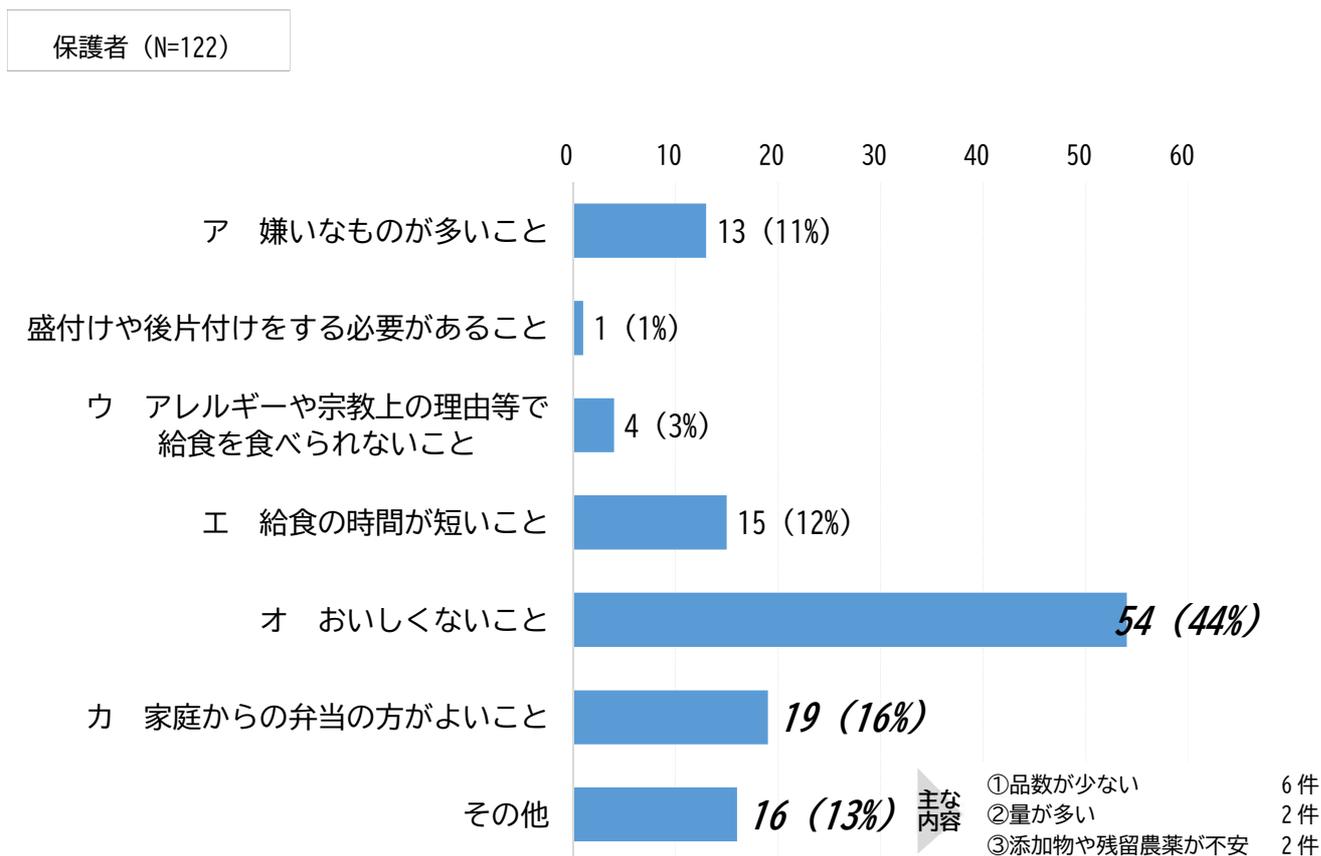
（選択制給食実施 63 校）

3(1)「エ あまり良くない」「オ 良くない」と回答した方への質問です。

【図 16】



【図 17】



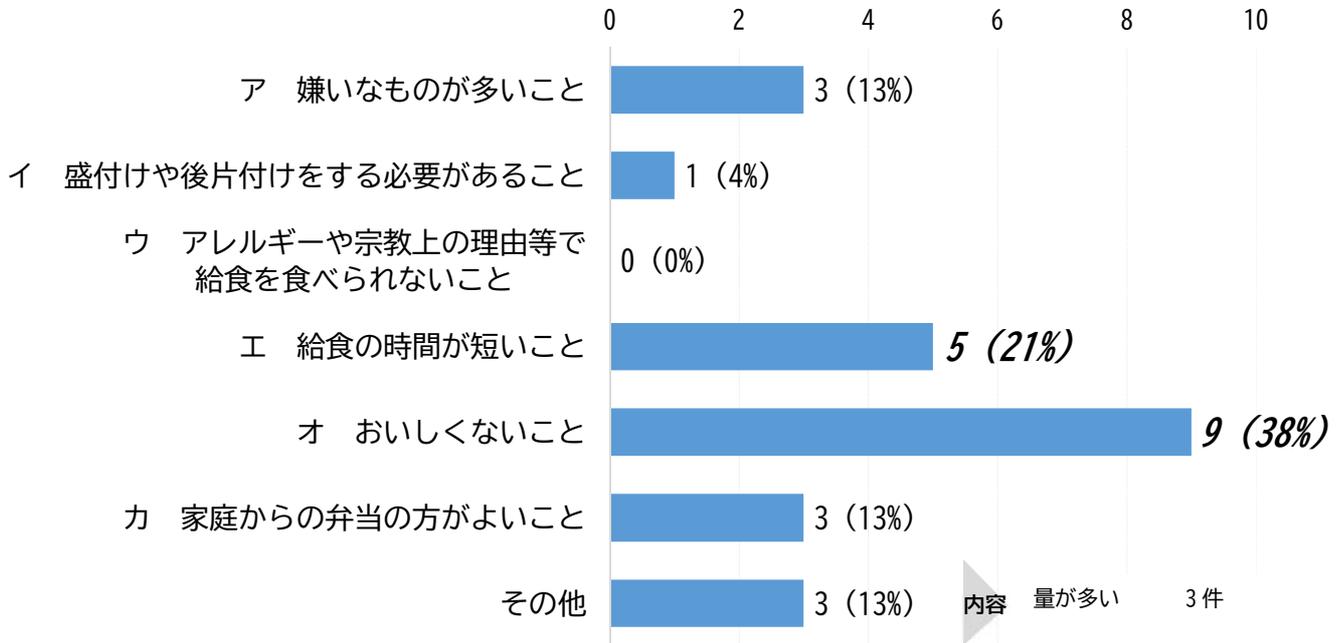
3(6) 今（施設一体型小中学校）の給食が良くない主な理由は何か。（最大2つまで）

（施設一体型小中学 7 校）

3(2)「エ あまり良くない」「オ 良くない」と回答した方への質問です。

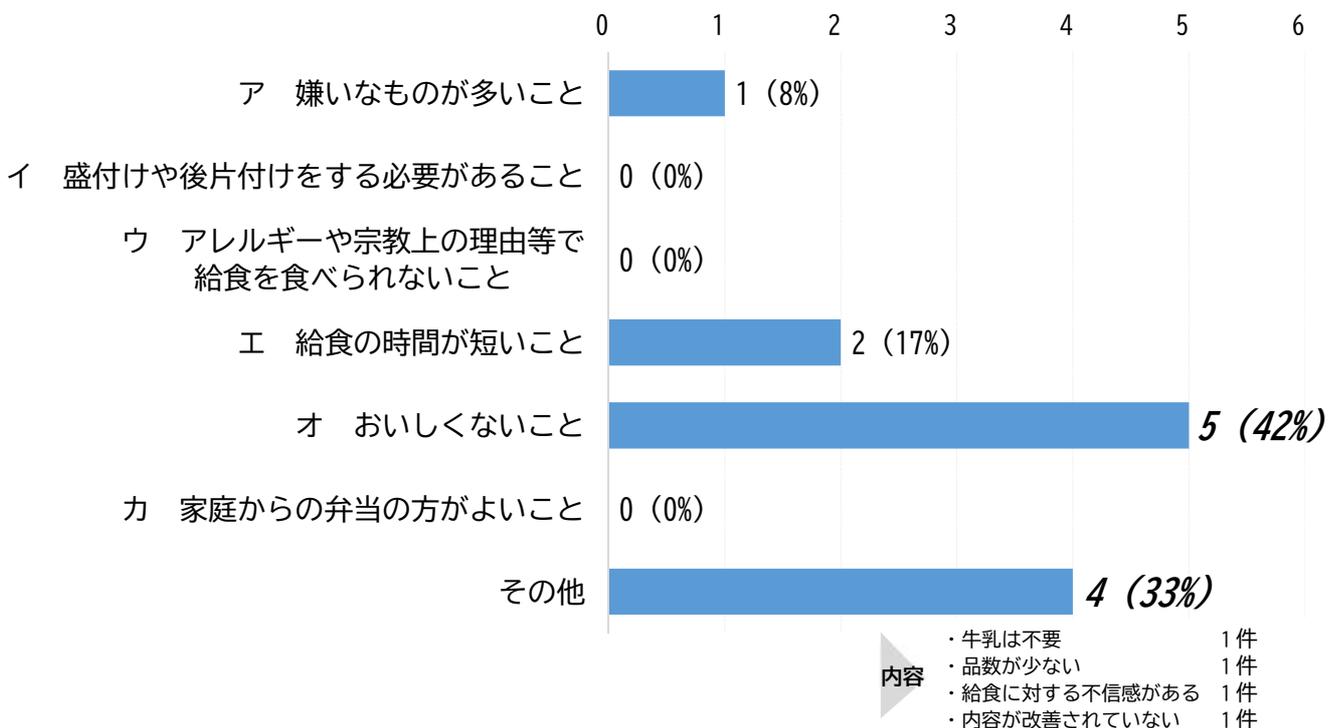
【図 18】

生徒 (N=24)



【図 19】

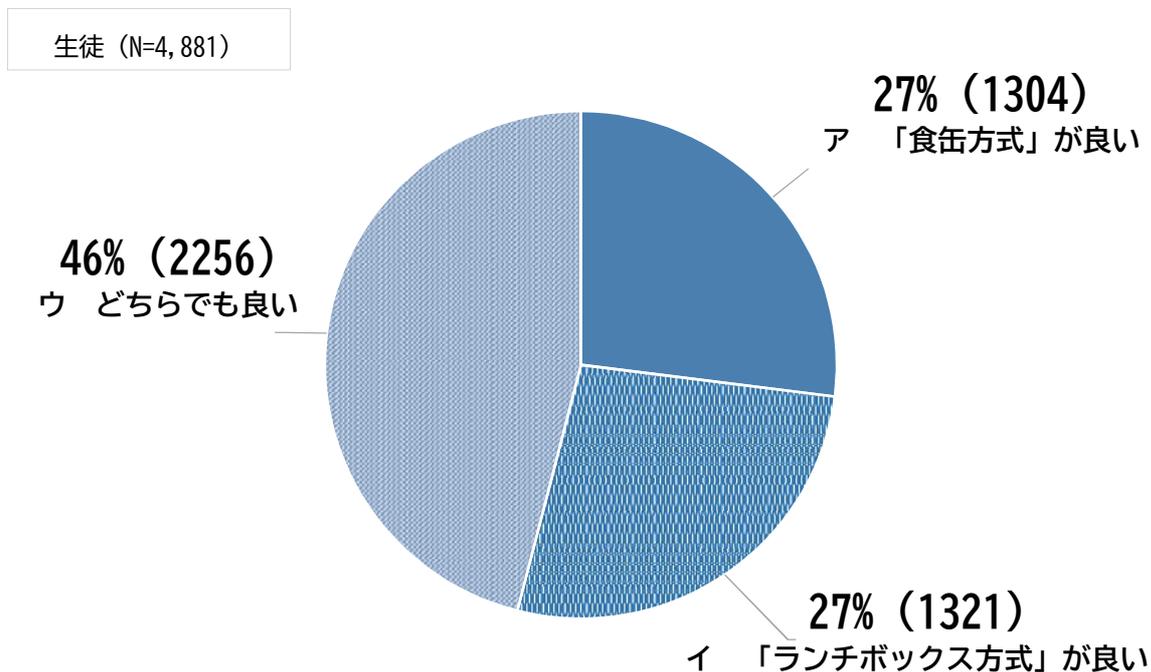
保護者 (N=12)



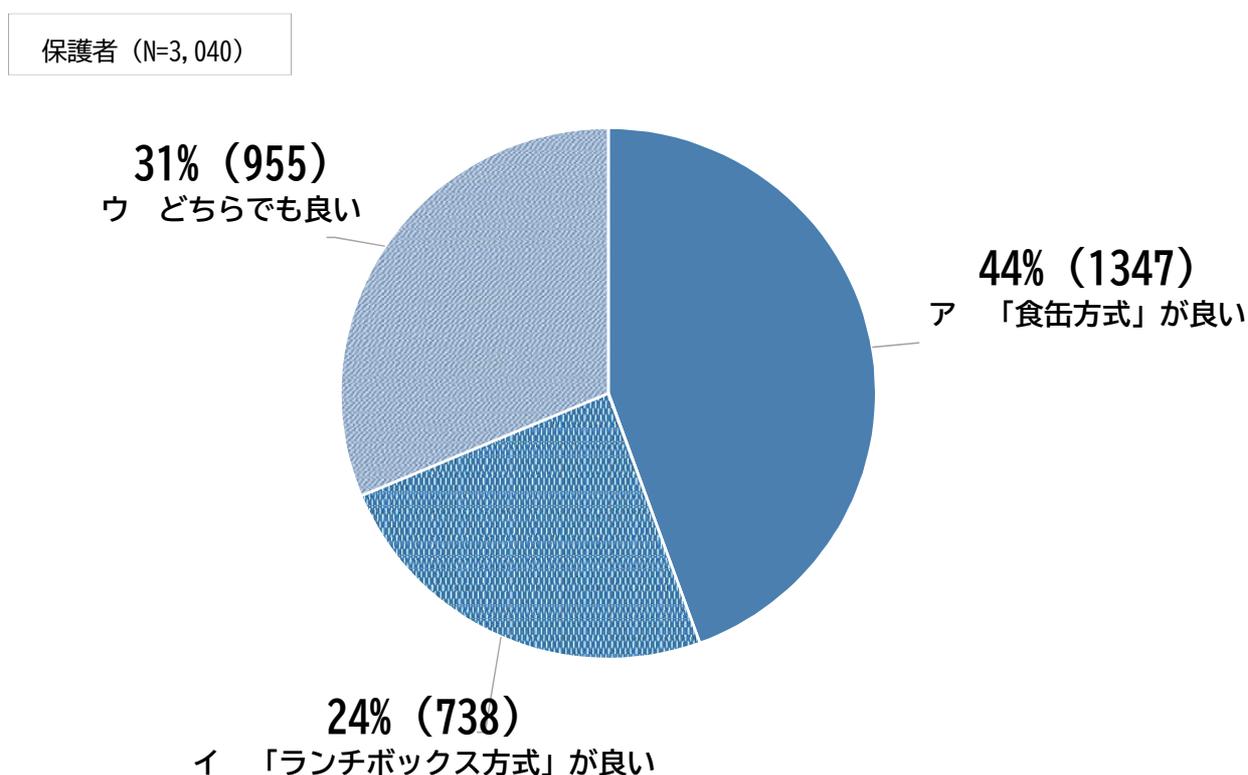
4 給食では、「食缶方式」か「ランチボックス方式」のどちらが良いと思いますか。

(選択制給食実施 63 校)

【図 20】

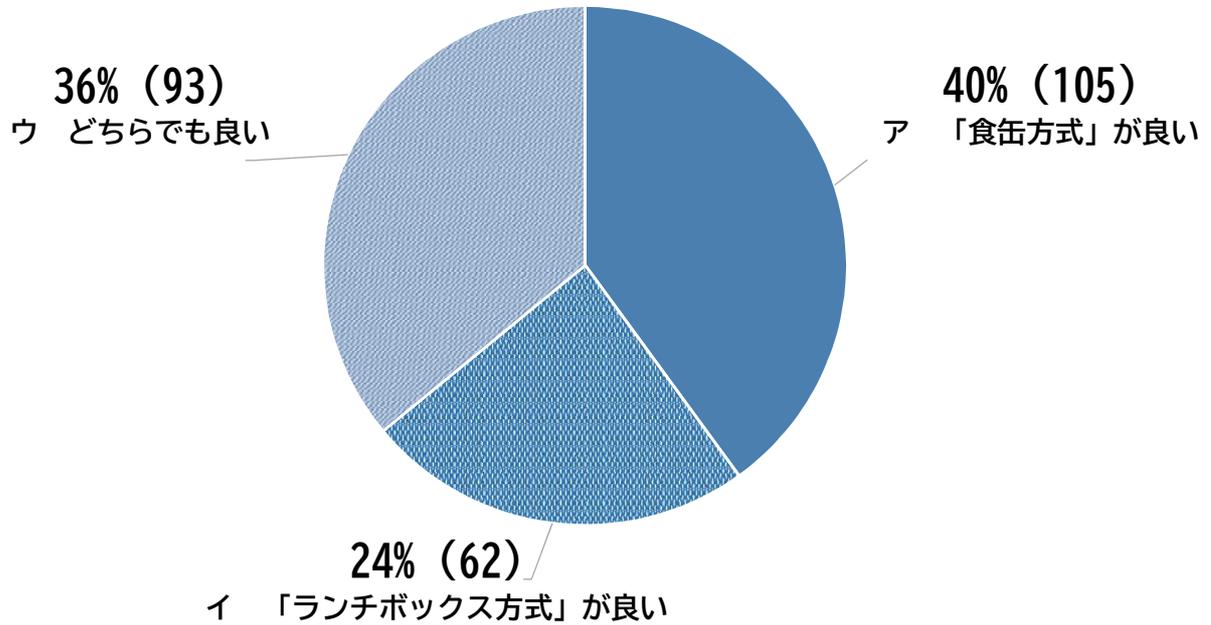


【図 21】



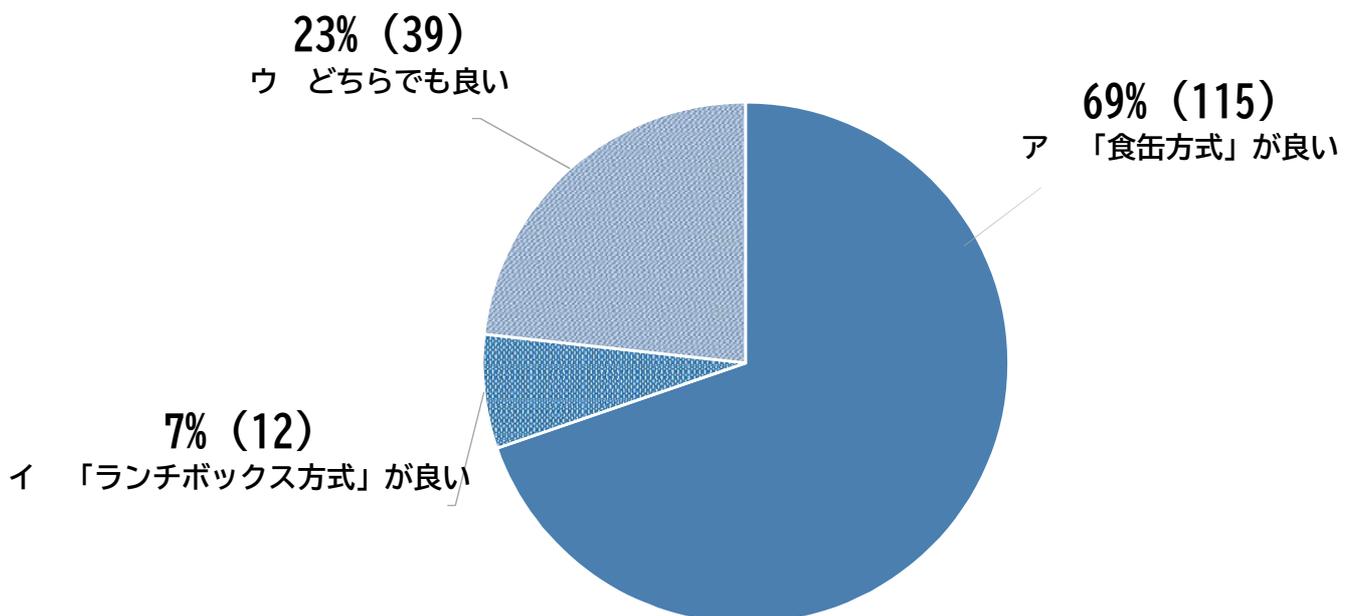
【図 22】

生徒 (N=260)



【図 23】

保護者 (N=166)

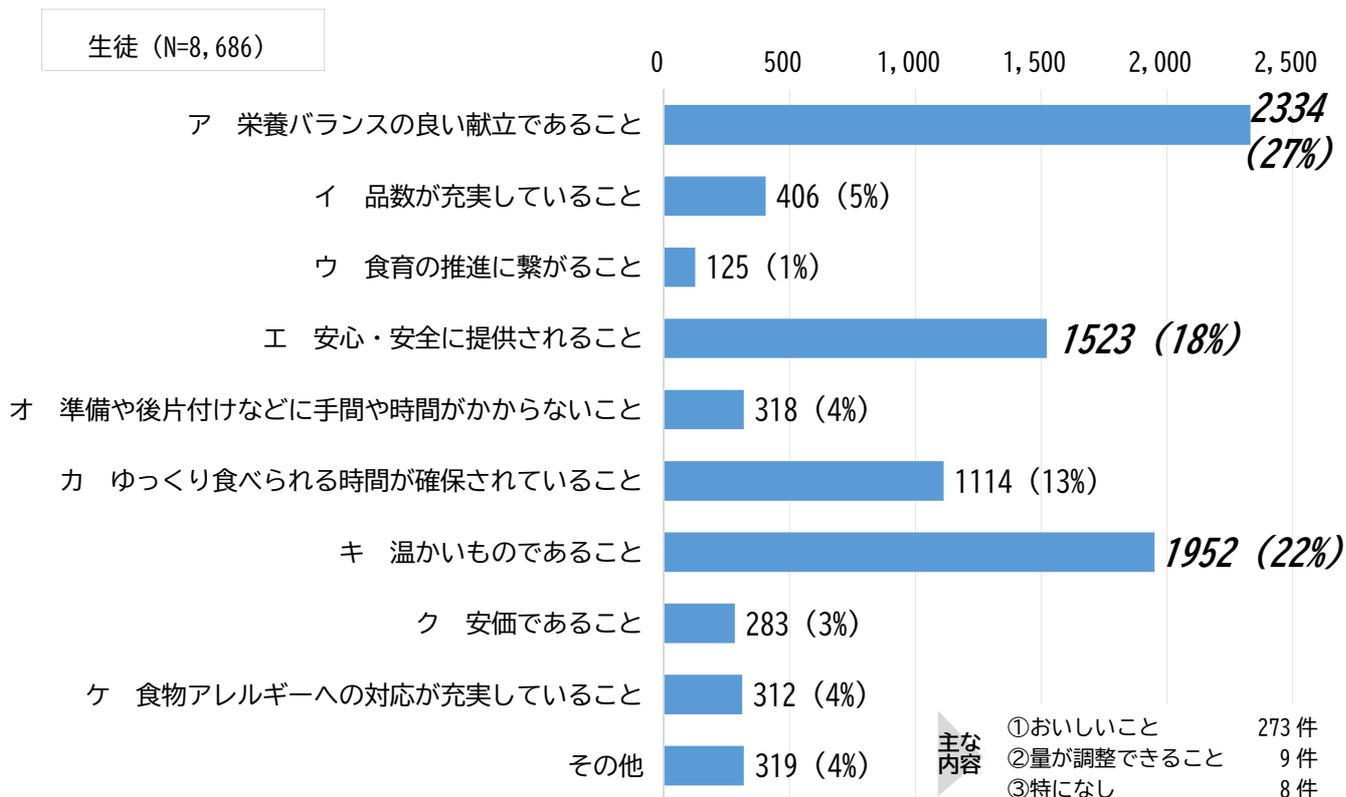


5 中学校給食で特に大切にすべきと思うことは何ですか。

(最大2つまで)

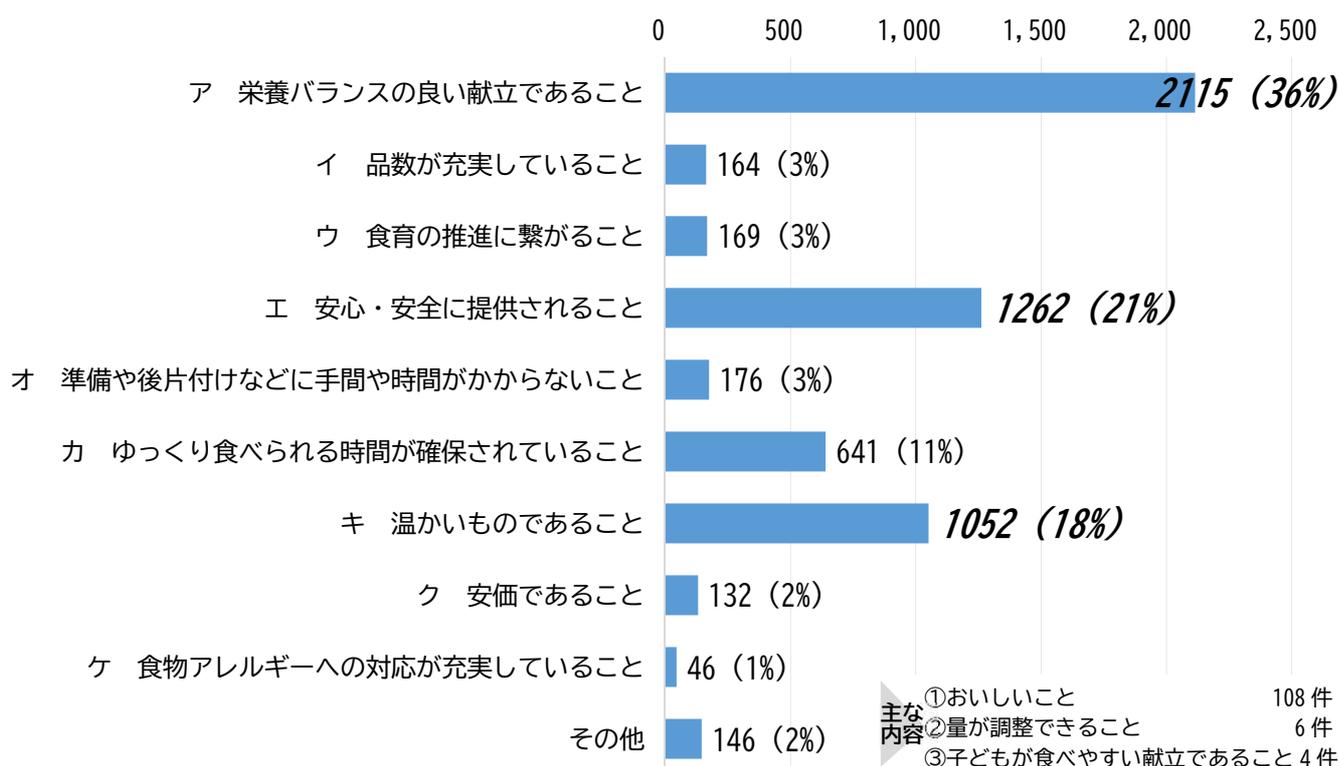
【図 24】

(選択制給食実施 63 校)



【図 25】

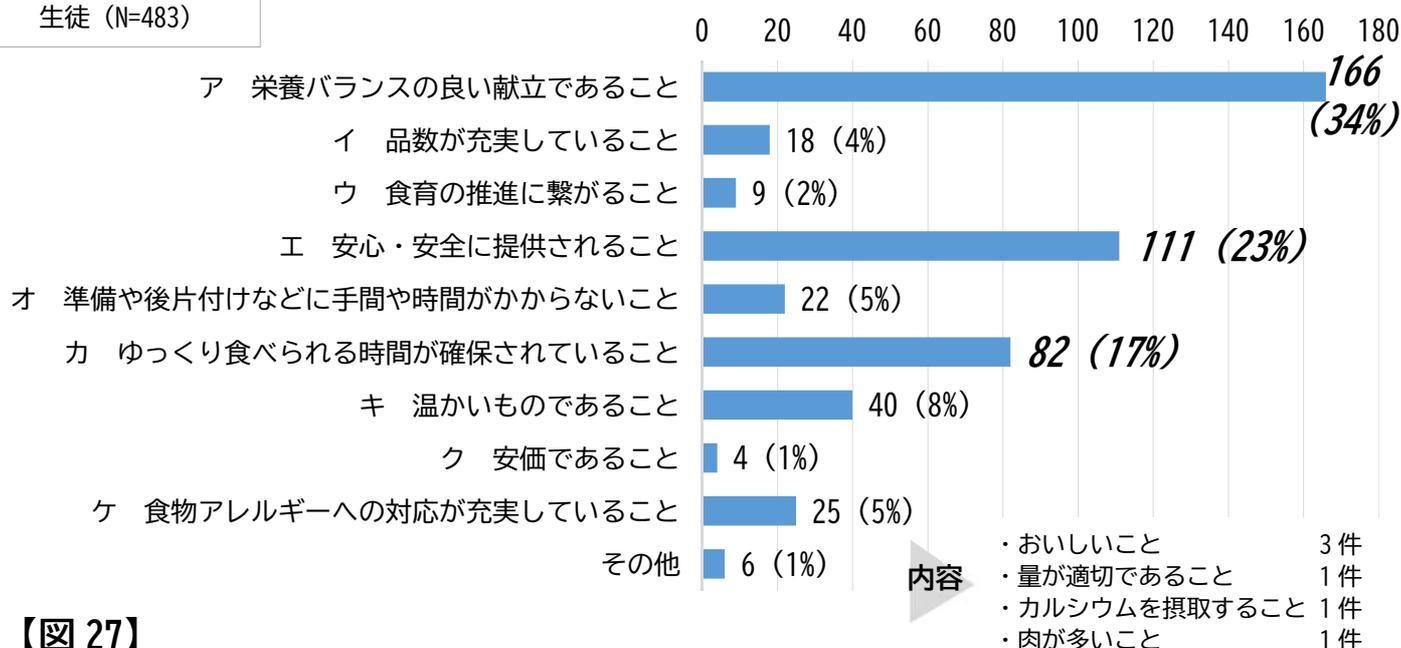
保護者 (N=5,903)



【図 26】

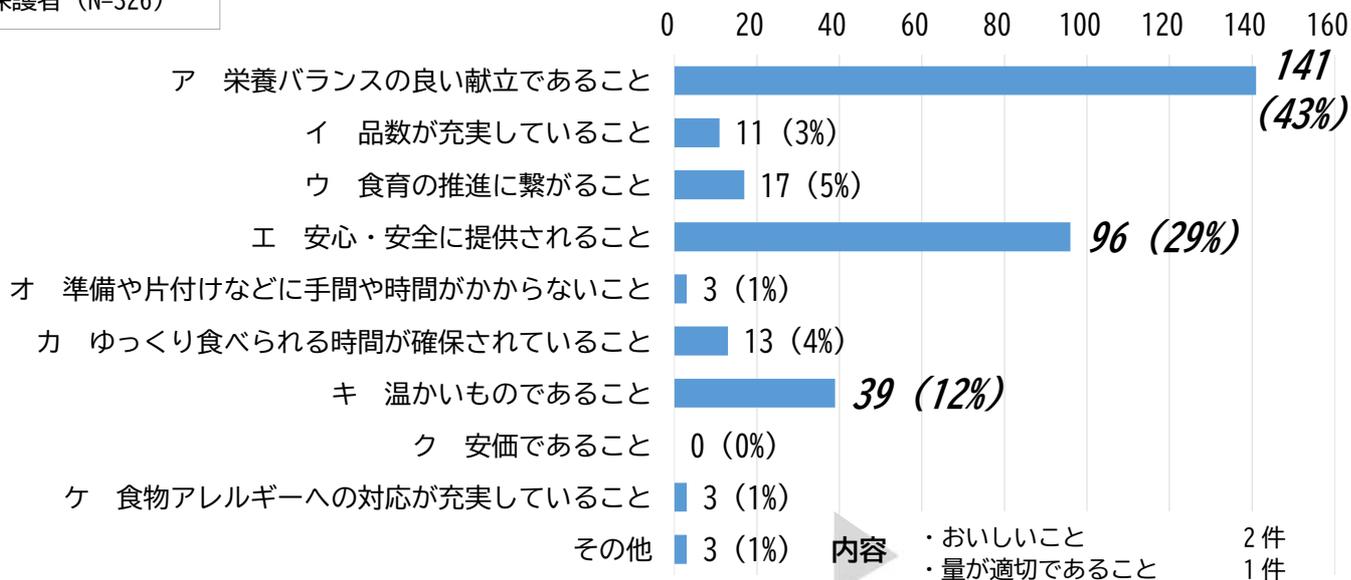
(施設一体型小中学校 7 校)

生徒 (N=483)



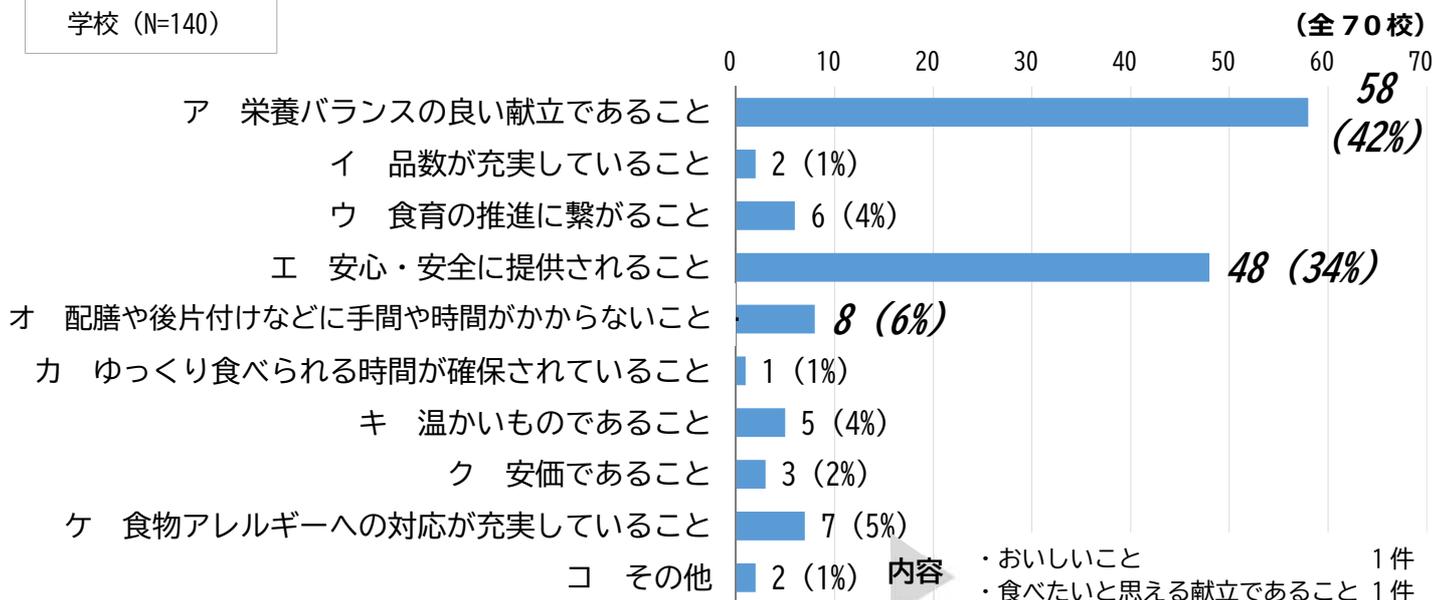
【図 27】

保護者 (N=326)



【図 28】

学校 (N=140)

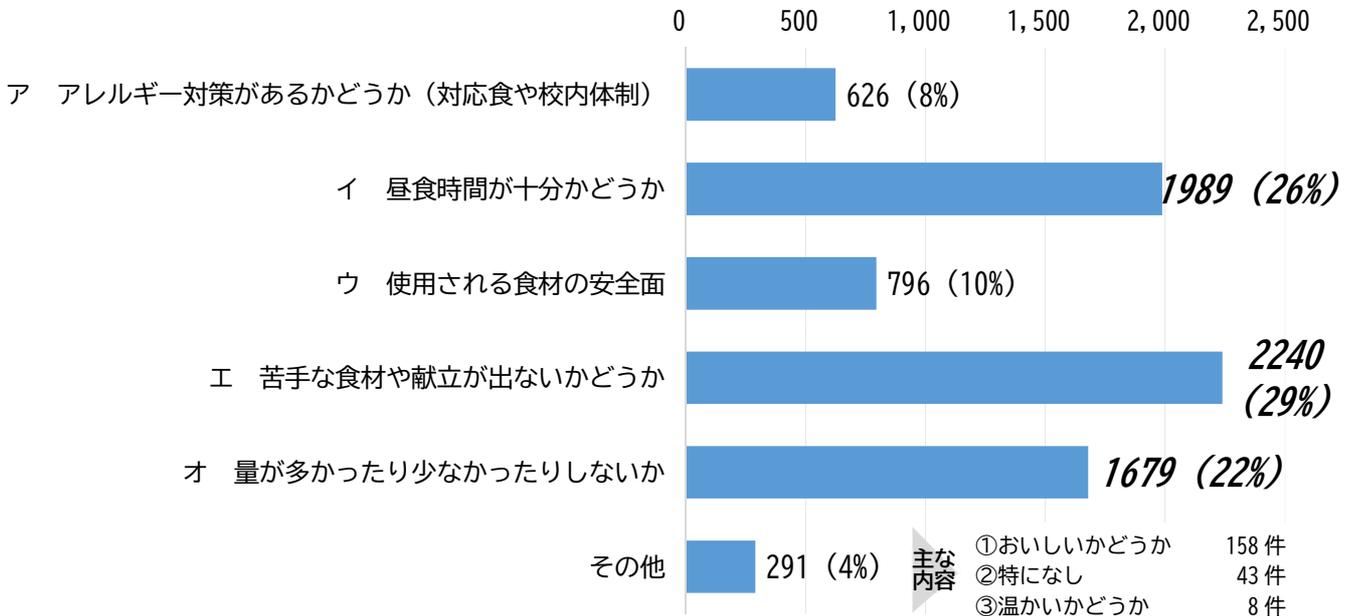


6(1) 全員制の中学校給食に移行することで特に不安に思うことは何ですか。(最大2つまで)

(選択制給食実施 63 校)

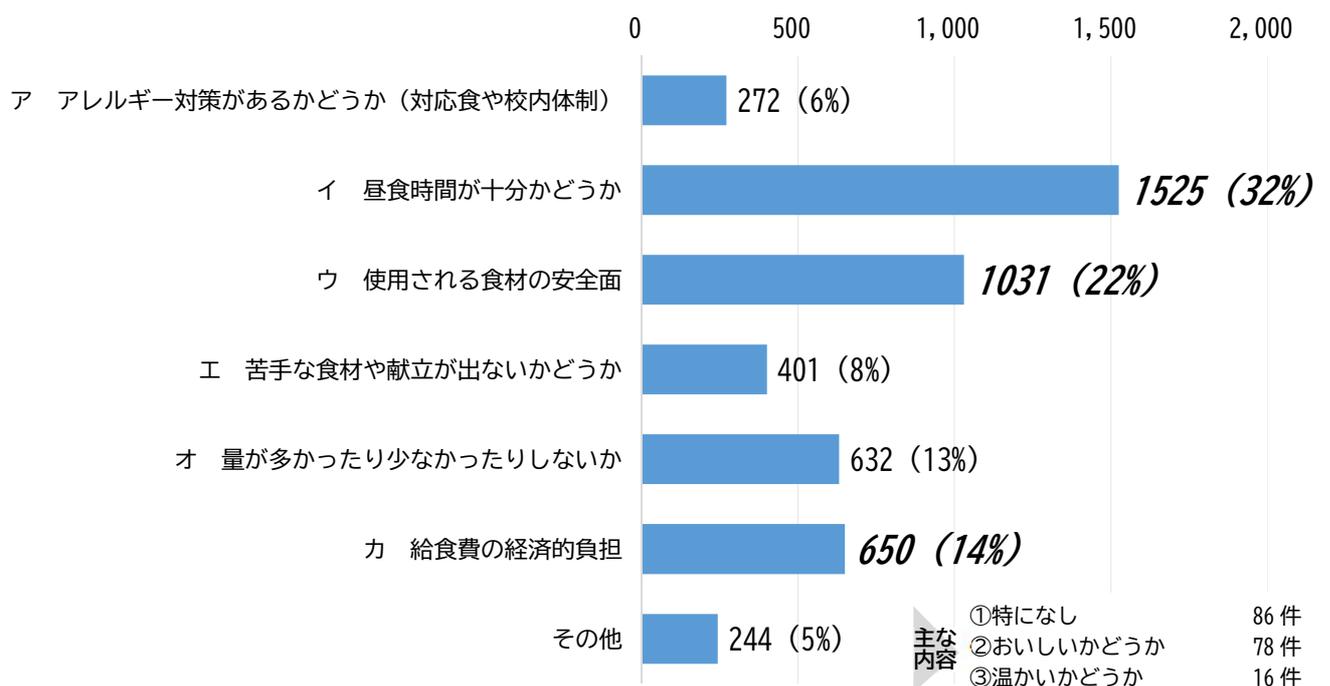
【図 29】

生徒 (N=7, 621)



【図 30】

保護者 (N=4, 755)

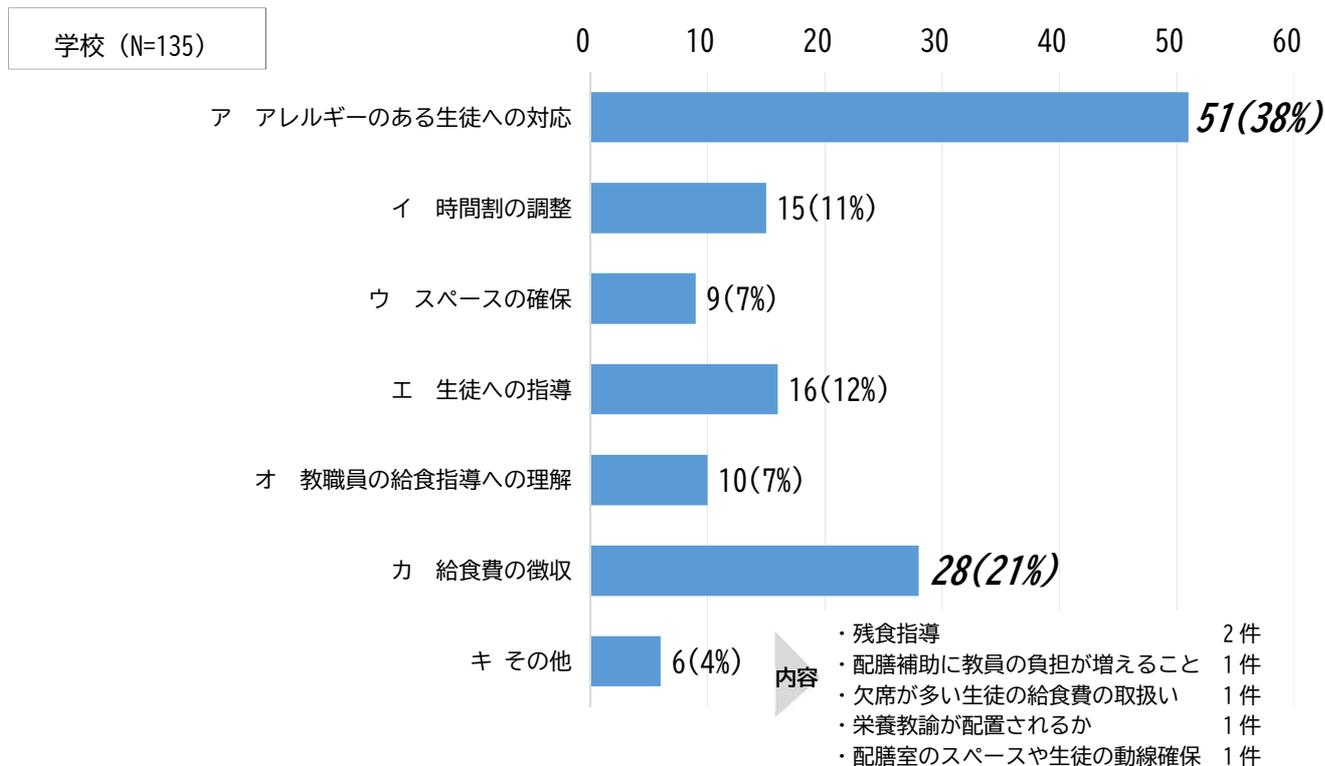


6(2) 全員制の中学校給食に移行することで懸念する点

は何ですか。(最大2つまで)

(全70校)

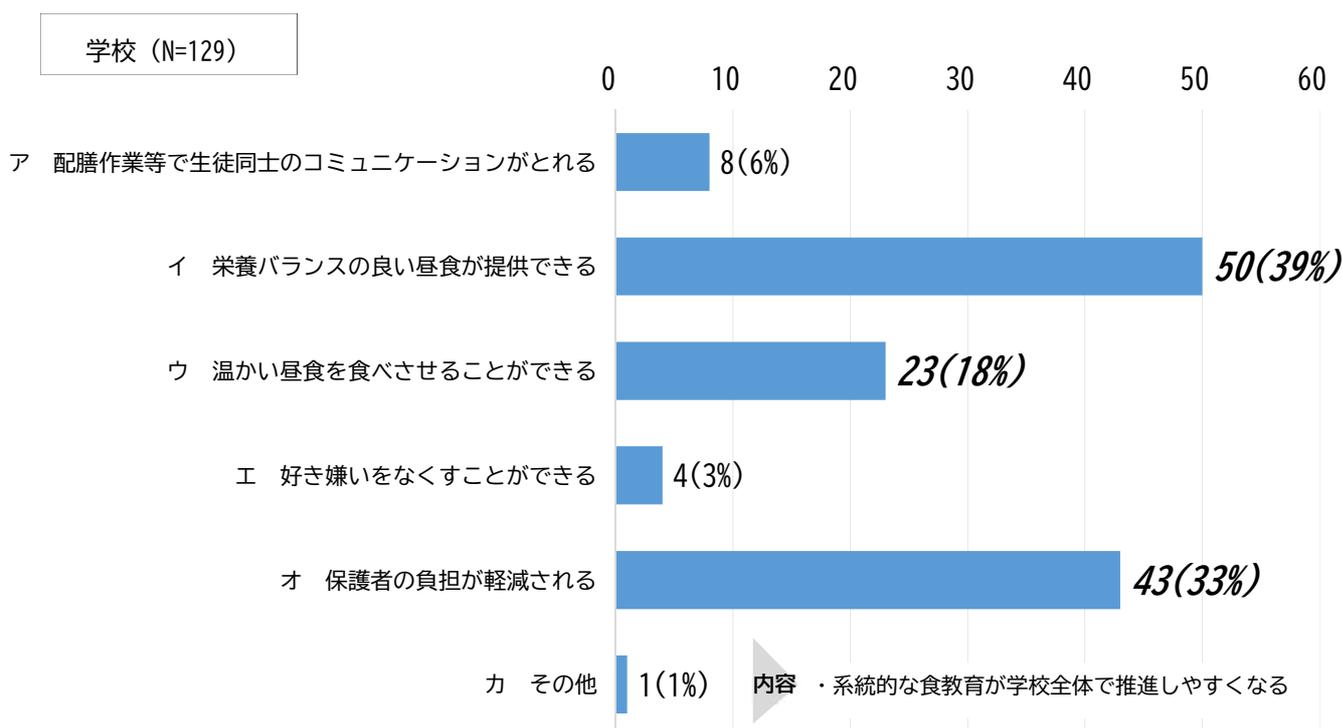
【図31】



7 全員制の中学校給食に移行することで特に良いと思う点は何ですか。

(全70校)

【図32】

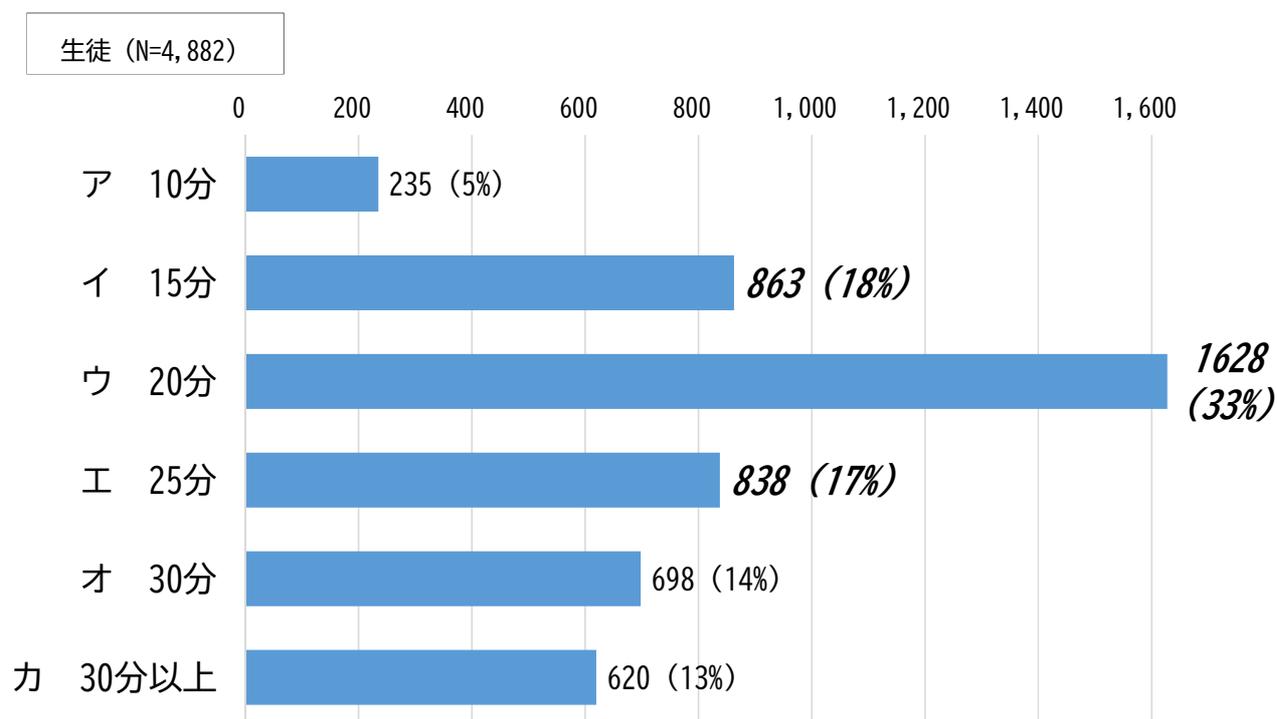


8(1) 昼食時間はどれくらい必要だと思いますか。

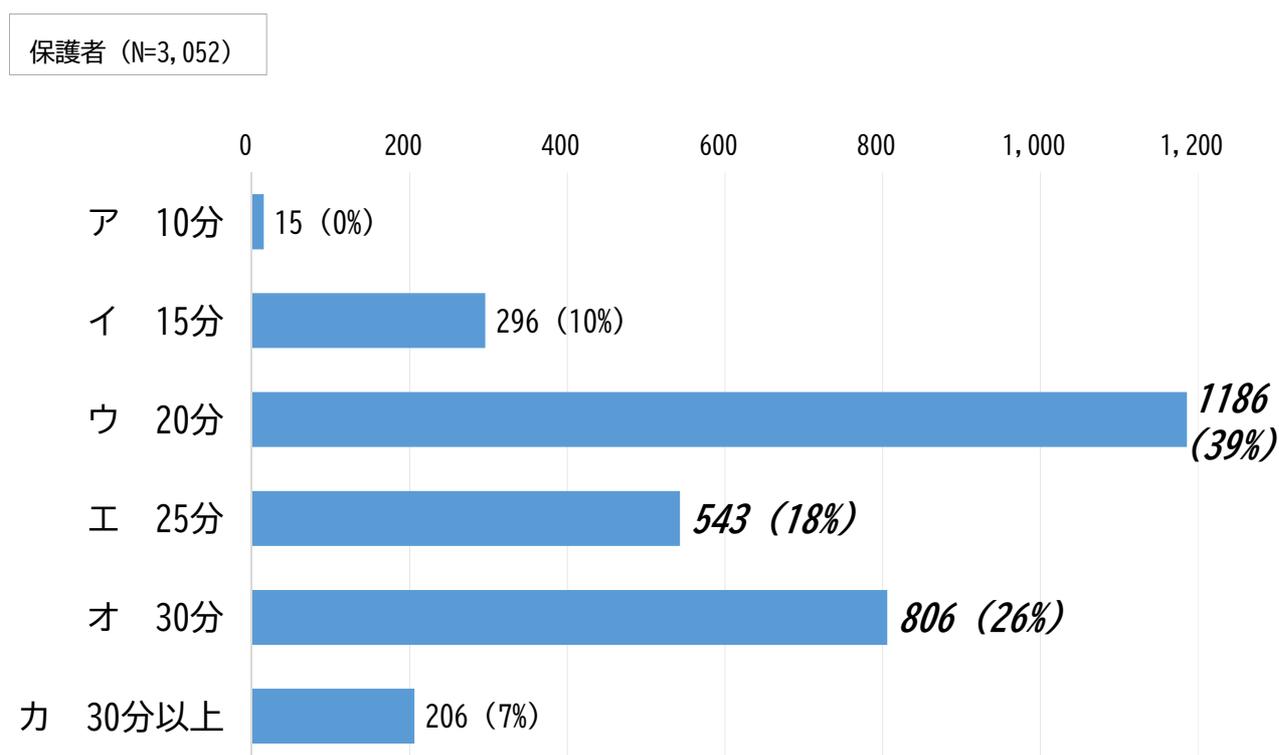
※「昼食時間」は、準備や片づけを含まない、実際に食べる時間。

(選択制給食実施 63 校)

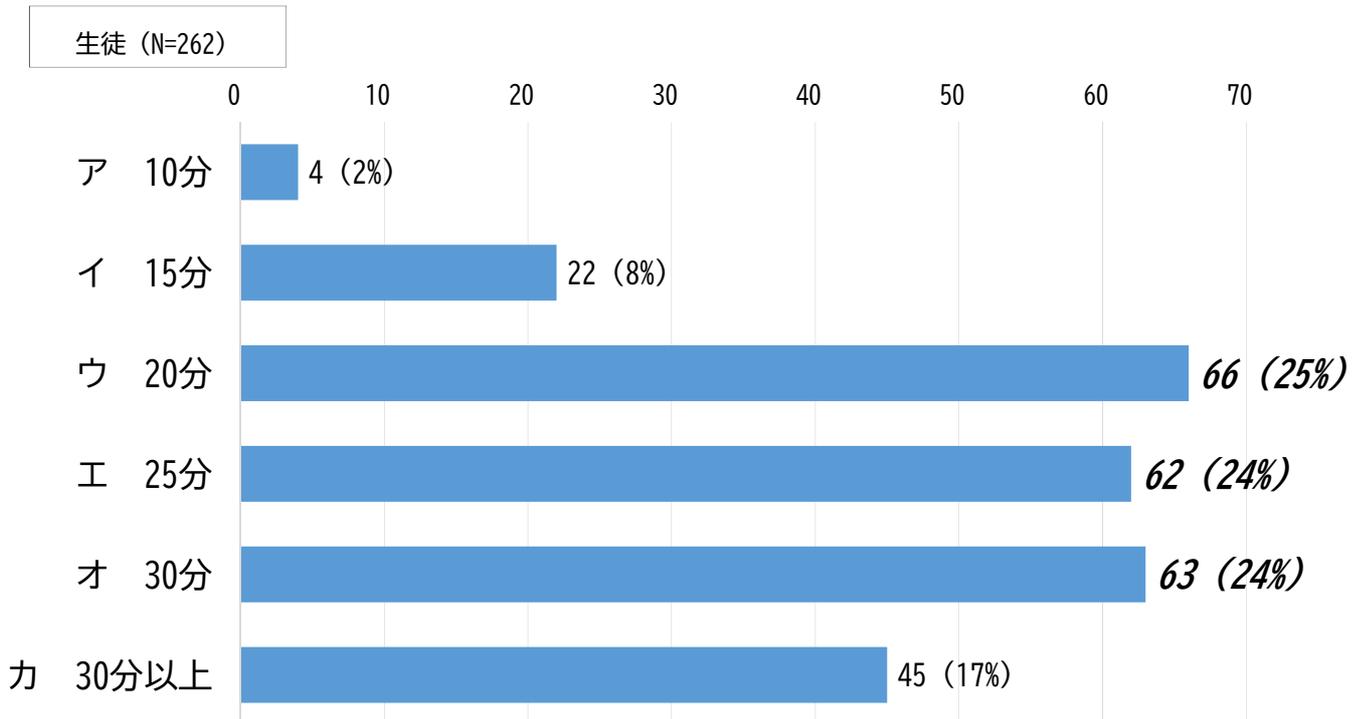
【図 33】



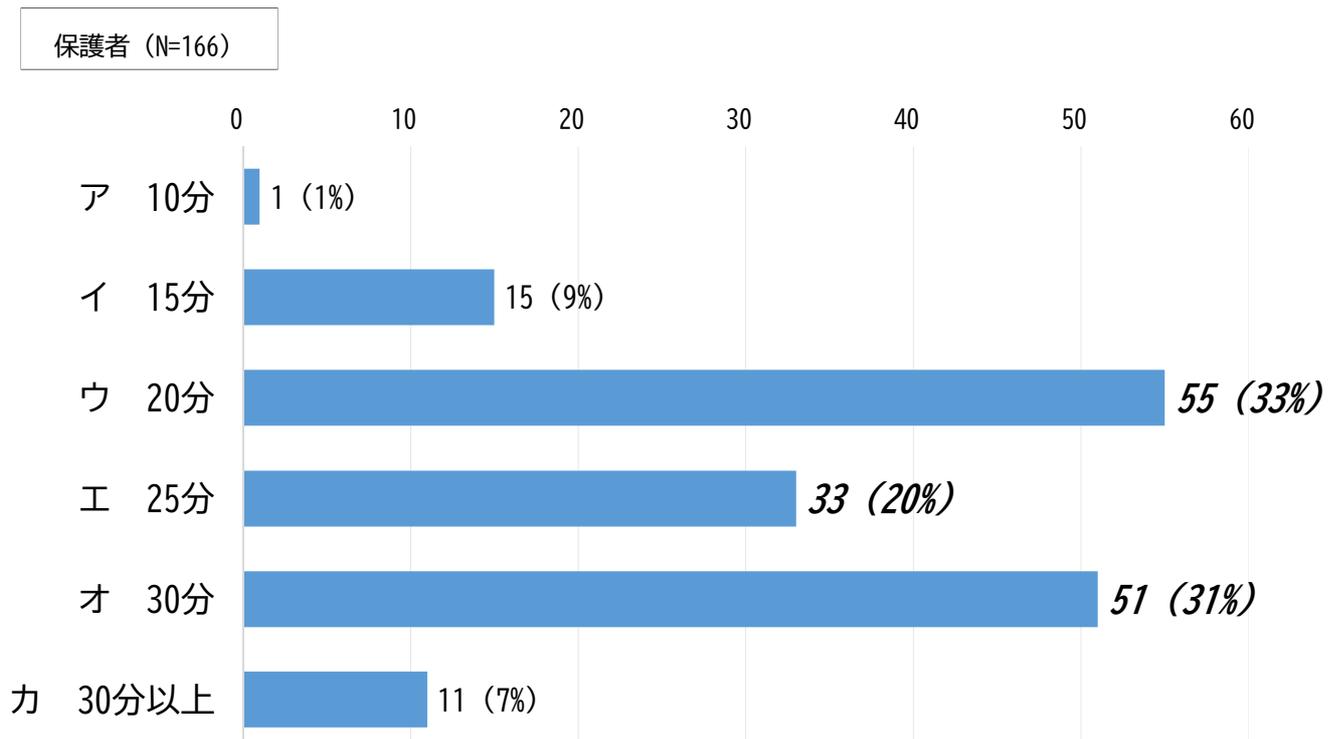
【図 34】



【図 35】



【図 36】

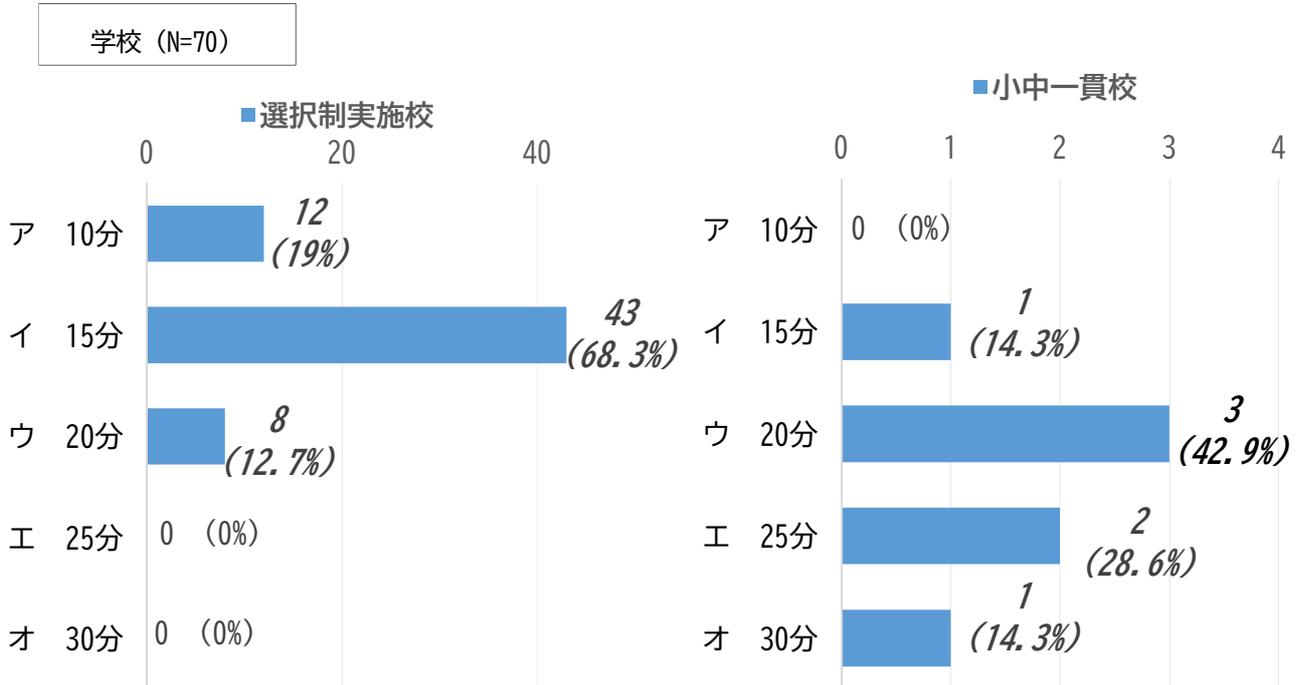


8(2) 今の昼食時間は何分ですか。

※「昼食時間」は、準備や片づけを含まない、実際に食べる時間。

(全70校)

【図 37】

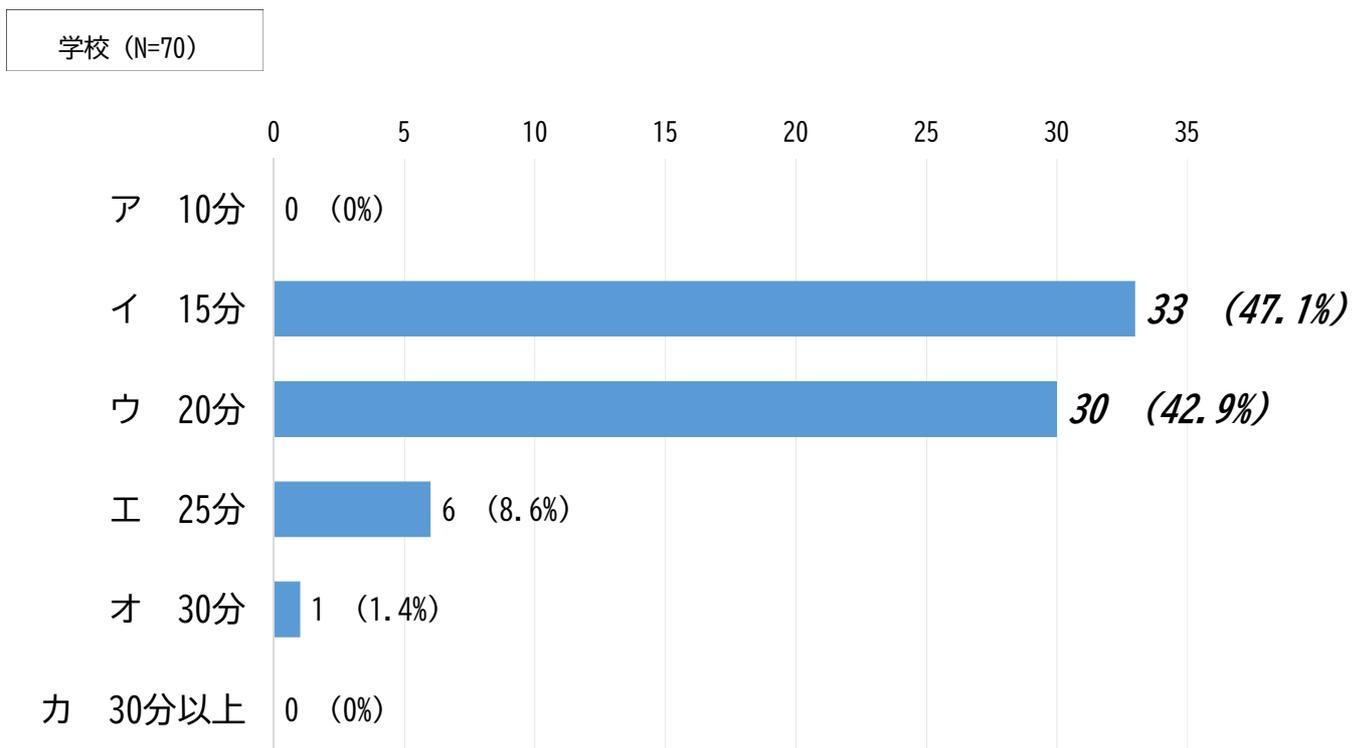


8(3) 全員制での昼食時間はどれくらい必要だと思いますか。

※「昼食時間」は、準備や片づけを含まない、実際に食べる時間。

(全70校)

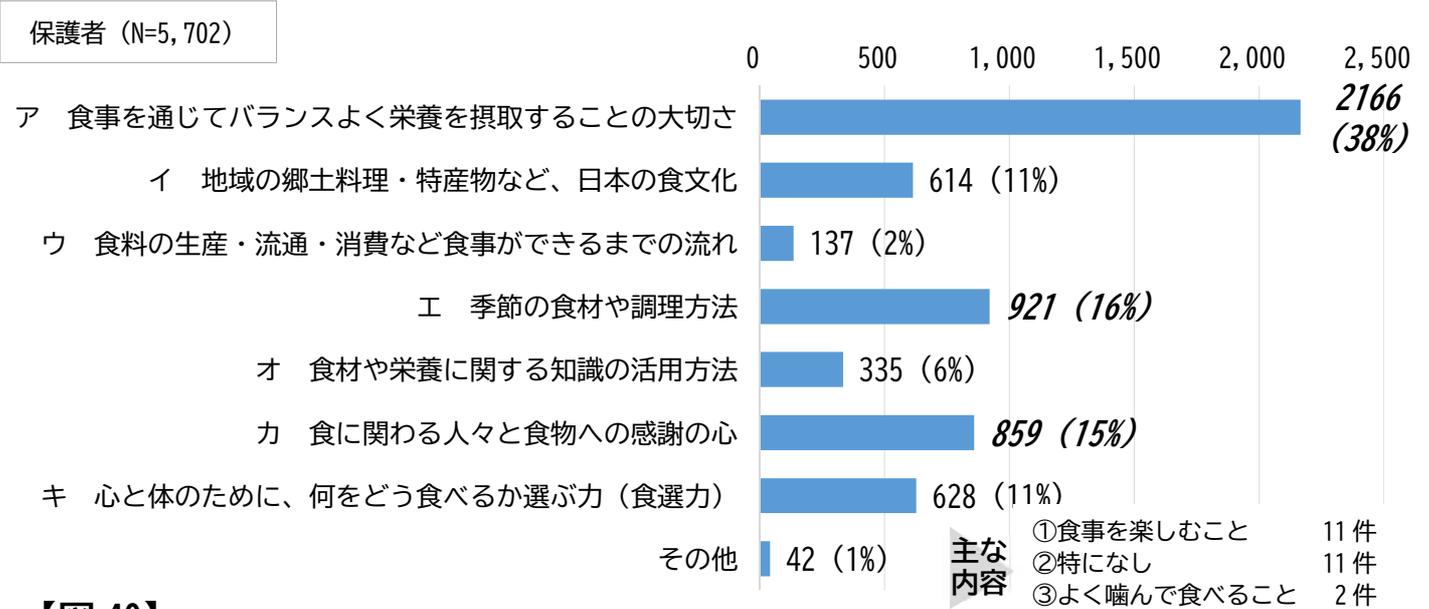
【図 38】



9 中学校給食を通して特に子どもに学んでほしいことは何ですか。(最大2つまで)

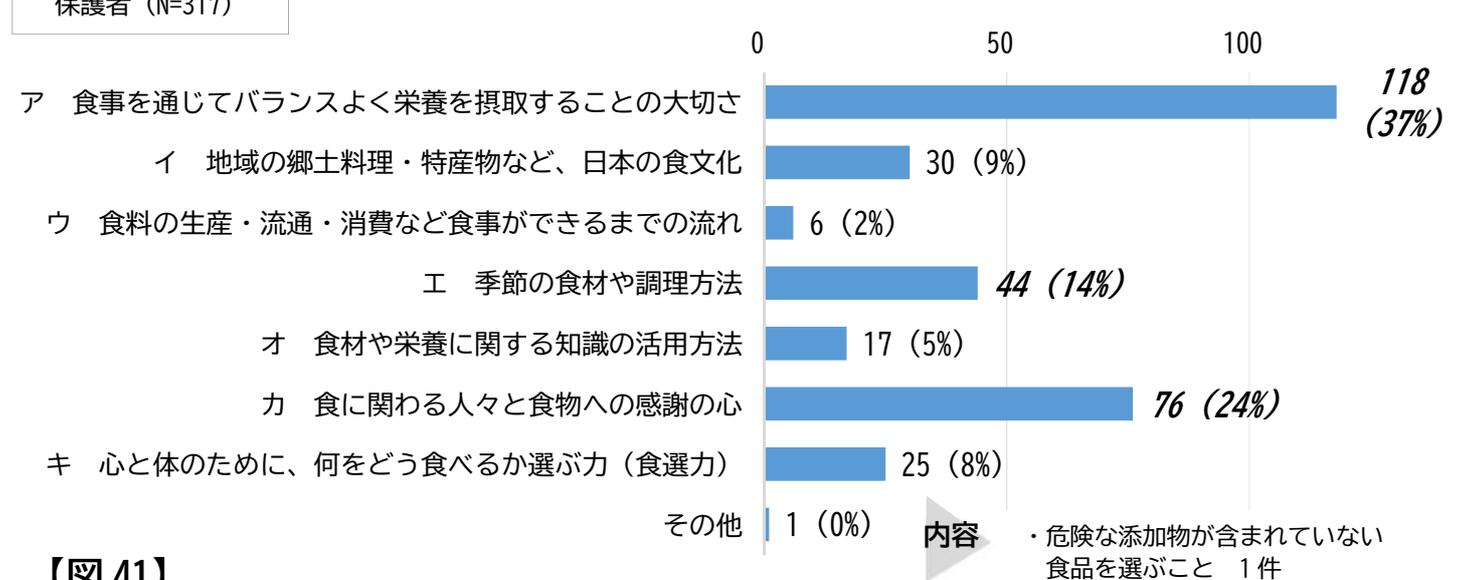
【図 39】

(選択制給食実施 63 校)



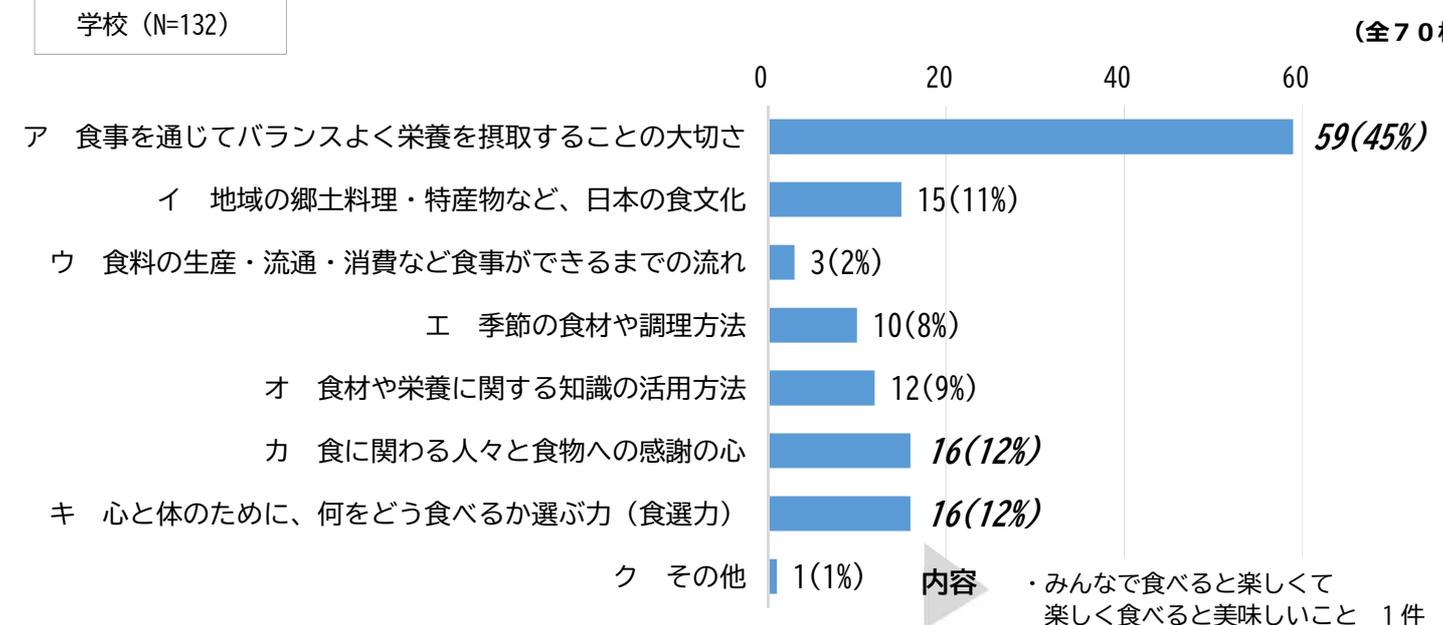
【図 40】

(施設一体型小中学校 7 校)



【図 41】

(全 70 校)



生徒（選択制給食実施63校）

保護者（選択制給食実施63校）

生徒（施設一体型小中学校7校）

保護者（施設一体型小中学校7校）

学年	選択肢	回答数	割合
中学校1年生(7年生)		1,822	37%
中学校2年生(8年生)		1,688	34%
中学校3年生(9年生)		1,401	29%
合計		4,911	100%

学年	選択肢	回答数	割合
中学校1年生(7年生)		1,241	41%
中学校2年生(8年生)		1,007	33%
中学校3年生(9年生)		806	26%
合計		3,054	100%

学年	選択肢	回答数	割合
7年生		94	36%
8年生		77	29%
9年生		92	35%
合計		263	100%

学年	選択肢	回答数	割合
7年生		51	31%
8年生		58	35%
9年生		57	34%
合計		166	100%

1 主に学校での屋食は何を食べていますか。

選択肢	回答数	割合
ア 家庭から持参した弁当	3,672	75%
イ 給食	1,197	24%
ウ 市販の弁当やおにぎり、パンなど	40	1%
合計	4,909	100%

2(1) 現在の「選択制給食」を利用していますか。

選択肢	回答数	割合
ア 毎日利用している	1,066	22%
イ とときどき利用している	308	6%
ウ 利用していたがやめた(今後も利用しない)	351	7%
エ 一度も利用したことがない	3,170	65%
合計	4,895	100%

2(1) 現在の「選択制給食」を利用していますか。

選択肢	回答数	割合
ア 毎日利用している	657	22%
イ とときどき利用している	270	9%
ウ 利用していたがやめた(今後も利用しない)	251	8%
エ 一度も利用したことがない	1,872	61%
合計	3,050	100%

2(2) 主な理由は何ですか。

2(1)ア 毎日利用している、「イ」とときどき利用している、「回答した方への質問

選択肢 (最大2つまで)	回答数	割合
ア 栄養バランスがよい	376	19%
イ 色々な献立や食材を食べられる	202	10%
ウ 衛生管理が徹底され、食中毒の心配がない	75	4%
エ 荷物が軽くなる	309	15%
オ 家の人から給食を食べるように言われている	657	32%
カ 特に理由はない	289	14%
その他	124	6%
合計	2,032	100%

2(2) 主な理由は何ですか。

2(1)ア 毎日利用している、「イ」とときどき利用している、「回答した方への質問

選択肢 (最大2つまで)	回答数	割合
ア 栄養バランスがよい	420	25%
イ 色々な献立や食材を食べられる	369	22%
ウ 衛生管理が徹底され、食中毒の心配がない	126	8%
エ 給食費が安い	91	5%
オ 家庭で弁当を用意することが負担	563	34%
カ 荷物が軽くなる	81	5%
キ 特に理由はない	12	1%
その他	12	1%
合計	1,674	100%

2(3) 主な理由は何か。

2(1)「ウ」利用していたがやめた「エ」一度も利用したことがない」と回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 家の人が家族の弁当を作るから	1,813	32%
イ 周囲からの評判を聞いて決めた	683	12%
ウ 家の人の作った弁当が好きだから	1,235	22%
エ 量が多い(または少ない)	403	7%
オ 食べる時間が短い	250	4%
カ 苦手なメニューがあるから	658	12%
キ アレルギーがあるため利用できない	51	1%
ク 特に理由はない	357	6%
その他	181	3%
合計	5,614	100%

2(3) 主な理由は何か。

2(1)「ウ」利用していたがやめた「エ」一度も利用したことがない」と回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 家庭から手作り弁当を持たせたい	286	8%
イ 周囲からの評判を聞いて決めた	371	11%
ウ 子どもが希望しない	1,663	49%
エ 量が多い(または少ない)	152	4%
オ 食べる時間が短い	354	10%
カ 苦手なメニューがあるから	247	7%
キ アレルギーがあるため利用できない	26	1%
ク 給食費が高い	79	2%
ケ 特に理由はない	55	2%
その他	167	5%
合計	3,400	100%

3(1) 小学校(小中学校(前期課程))の給食はどうでしたか。

選択肢	回答数	割合
ア とても良い	2,425	50%
イ 良い	1,396	29%
ウ どちらとも言えない	731	15%
エ あまり良くない	167	3%
オ 良くない	166	3%
合計	4,885	100%

3(1) 小学校(小中学校(前期課程))の給食はどうでしたか。

選択肢	回答数	割合
ア とても良い	1,746	57%
イ 良い	974	32%
ウ どちらとも言えない	244	8%
エ あまり良くない	53	2%
オ 良くない	28	1%
合計	3,045	100%

3(2) 今(施設一体型小中学校)の給食はどうですか。

選択肢	回答数	割合
ア とても良い	85	32%
イ 良い	118	45%
ウ どちらとも言えない	46	17%
エ あまり良くない	12	5%
オ 良くない	2	1%
合計	263	100%

3(2) 今(施設一体型小中学校)の給食はどうですか。

選択肢	回答数	割合
ア とても良い	72	43%
イ 良い	75	45%
ウ どちらとも言えない	12	7%
エ あまり良くない	4	2%
オ 良くない	3	2%
合計	166	100%

3(3) 主な理由は何か。

3(1)「ア」とても良い「イ」良いと回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア みんなと一緒に食べられること	869	13%
イ 色々なものが食べられること	662	10%
ウ 量の調整ができること	562	8%
エ 温かいものが食べられること	1,855	28%
オ おいしいこと	2,559	38%
カ 食育や食文化について学ぶことができること	139	2%
その他	30	0%
合計	6,666	100%

3(3) 主な理由は何か。

3(1)「ア」とても良い「イ」良いと回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア みんなと一緒に食べられること	345	7%
イ 色々なものが食べられること	1,401	27%
ウ 量の調整ができること	217	4%
エ 温かいものが食べられること	1,729	34%
オ おいしいこと	1,100	22%
カ 食育や食文化について学ぶことができること	258	5%
その他	46	1%
合計	5,096	100%

3(4) 主な理由は何か。

3(1)「ア」とても良い「イ」良いと回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア みんなと一緒に食べられること	89	26%
イ 色々なものが食べられること	71	21%
ウ 量の調整ができること	17	5%
エ 温かいものが食べられること	57	17%
オ おいしいこと	99	29%
カ 食育や食文化について学ぶことができること	9	3%
その他	3	1%
合計	345	100%

3(4) 主な理由は何か。

3(1)「ア」とても良い「イ」良いと回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア みんなと一緒に食べられること	35	13%
イ 色々なものが食べられること	93	33%
ウ 量の調整ができること	16	6%
エ 温かいものが食べられること	77	28%
オ おいしいこと	33	12%
カ 食育や食文化について学ぶことができること	24	9%
その他	2	1%
合計	280	100%

生徒（選択制給食実施63校）

保護者（選択制給食実施63校）

生徒（施設一体型小中学校7校）

保護者（施設一体型小中学校7校）

3(5) 主な理由は何か。

3(1)「ウ あまり良くない」「エ 良くない」と回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 嫌いなものが多いこと	139	22%
イ 盛り付けや後片付けをする必要があること	49	8%
ウ アレルギーや宗教上の理由等で給食を食べられないこと	10	2%
エ 給食の時間が短いこと	64	10%
オ おいしくないこと	206	33%
カ 家庭からの弁当の方がよいこと	138	22%
その他	27	4%
合計	633	100%

4. 給食では、「食缶方式」が「ランチボックス方式」のどちらが良いと思いますか。

選択肢	回答数	割合
ア 「食缶方式」が良い	1,304	27%
イ 「ランチボックス方式」が良い	1,321	27%
ウ どちらでも良い	2,256	46%
合計	4,881	100%

5. 中学校給食で特に大切にすべきと思うことは何ですか。

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 栄養バランスの良い献立であること	2,334	27%
イ 品数が充実していること	406	5%
ウ 食育の推進に繋がること	125	1%
エ 安心・安全に提供されること	1,523	18%
オ 準備や片付けなどに手間や時間がかからないこと	318	4%
カ ゆっくり食べられる時間が確保されていること	1,114	13%
キ 温かいものであること	1,952	22%
ク 安価であること	283	3%
ケ 食物アレルギーへの対応が充実していること	312	4%
その他	319	4%
合計	8,686	100%

3(6) 主な理由は何か。

3(1)「ウ あまり良くない」「エ 良くない」と回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 嫌いなものが多いこと	3	13%
イ 盛り付けや後片付けをする必要があること	1	4%
ウ アレルギーや宗教上の理由等で給食を食べられないこと	0	0%
エ 給食の時間が短いこと	5	21%
オ おいしくないこと	9	38%
カ 家庭からの弁当の方がよいこと	3	13%
その他	3	13%
合計	24	100%

4. 給食では、「食缶方式」が「ランチボックス方式」のどちらが良いと思いますか。

選択肢	回答数	割合
ア 「食缶方式」が良い	105	40%
イ 「ランチボックス方式」が良い	62	24%
ウ どちらでも良い	93	36%
合計	260	100%

5. 中学校給食で特に大切にすべきと思うことは何ですか。

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 栄養バランスの良い献立であること	166	34%
イ 品数が充実していること	18	4%
ウ 食育の推進に繋がること	9	2%
エ 安心・安全に提供されること	111	23%
オ 準備や片付けなどに手間や時間がかからないこと	22	5%
カ ゆっくり食べられる時間が確保されていること	82	17%
キ 温かいものであること	40	8%
ク 安価であること	4	1%
ケ 食物アレルギーへの対応が充実していること	25	5%
その他	6	1%
合計	483	100%

3(6) 主な理由は何か。

3(1)「ウ あまり良くない」「エ 良くない」と回答した方への質問

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 嫌いなものが多いこと	1	8%
イ 盛り付けや後片付けをする必要があること	0	0%
ウ アレルギーや宗教上の理由等で給食を食べられないこと	0	0%
エ 給食の時間が短いこと	2	17%
オ おいしくないこと	5	42%
カ 家庭からの弁当の方がよいこと	0	0%
その他	4	33%
合計	12	100%

4. 給食では、「食缶方式」が「ランチボックス方式」のどちらが良いと思いますか。

選択肢	回答数	割合
ア 「食缶方式」が良い	115	69%
イ 「ランチボックス方式」が良い	12	7%
ウ どちらでも良い	39	23%
合計	166	100%

5. 中学校給食で特に大切にすべきと思うことは何ですか。

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 栄養バランスの良い献立であること	141	43%
イ 品数が充実していること	11	3%
ウ 食育の推進に繋がること	17	5%
エ 安心・安全に提供されること	96	29%
オ 準備や片付けなどに手間や時間がかからないこと	3	1%
カ ゆっくり食べられる時間が確保されていること	13	4%
キ 温かいものであること	39	12%
ク 安価であること	0	0%
ケ 食物アレルギーへの対応が充実していること	3	1%
その他	3	1%
合計	326	100%

生徒（選択制給食実施63校）

保護者（選択制給食実施63校）

生徒（施設一体型小中学校7校）

保護者（施設一体型小中学校7校）

6(1) 全員の中学校給食に移行することで特に不安に思うことは何ですか。

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア アレルギー対策があるかどうか(対応食や校内体制)	626	8%
イ 昼食時間が十分かどうか	1,989	26%
ウ 使用される食材の安全面	796	10%
エ 苦手な食材や献立が出ないかどうか	2,240	29%
オ 量が少なかったり少なかつたりしないか	1,679	22%
その他	291	4%
合計	7,621	100%

6(1) 全員の中学校給食に移行することで特に不安に思うことは何ですか。

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア アレルギー対策があるかどうか(対応食や校内体制)	272	6%
イ 昼食時間が十分かどうか	1,525	32%
ウ 使用される食材の安全面	1,031	22%
エ 苦手な食材や献立が出ないかどうか	401	8%
オ 量が少なかったり少なかつたりしないか	632	13%
カ 給食費の経済的負担	650	14%
その他	244	5%
合計	4,755	100%

8(1) 昼食時間はどれくらい必要だと思いますか

※「昼食時間」は、準備や片づけを含まない、実際に食べる時間。

選択肢	回答数	割合
ア 10分	235	5%
イ 15分	863	18%
ウ 20分	1,628	33%
エ 25分	838	17%
オ 30分	698	14%
カ 30分以上	620	13%
合計	4,882	100%

8(1) 昼食時間はどれくらい必要だと思いますか

※「昼食時間」は、準備や片づけを含まない、実際に食べる時間。

選択肢	回答数	割合
ア 10分	15	0%
イ 15分	296	10%
ウ 20分	1,186	39%
エ 25分	543	18%
オ 30分	806	26%
カ 30分以上	206	7%
合計	3,052	100%

8(1) 昼食時間はどれくらい必要だと思いますか

※「昼食時間」は、準備や片づけを含まない、実際に食べる時間。

選択肢	回答数	割合
ア 10分	4	2%
イ 15分	22	8%
ウ 20分	66	25%
エ 25分	62	24%
オ 30分	63	24%
カ 30分以上	45	17%
合計	262	100%

8(1) 昼食時間はどれくらい必要だと思いますか
※「昼食時間」は、準備や片づけを含まない、実際に食べる時間。

選択肢	回答数	割合
ア 10分	1	1%
イ 15分	15	9%
ウ 20分	55	33%
エ 25分	33	20%
オ 30分	51	31%
カ 30分以上	11	7%
合計	166	100%

9 中学校給食を通して特に子どもに学んでほしいことは何ですか。

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 食事を運ぶバランスよく栄養を摂取することの大切さ	2,166	38%
イ 地域の郷土料理・特産物など、日本の食文化	614	11%
ウ 食料の生産・流通・消費など食事ができるまでの流れ	137	2%
エ 季節の食材や調理方法	921	16%
オ 食材や栄養に関する知識の活用方法	335	6%
カ 食に関わる人々と食物への感謝の心	859	15%
キ 心と体のために、何をどう食べるか選ぶ力(食運力)	628	11%
その他	42	1%
合計	5,702	100%

9 中学校給食を通して特に子どもに学んでほしいことは何ですか。

選択肢（最大2つまで）	回答数	割合
ア 食事を運ぶバランスよく栄養を摂取することの大切さ	118	37%
イ 地域の郷土料理・特産物など、日本の食文化	30	9%
ウ 食料の生産・流通・消費など食事ができるまでの流れ	6	2%
エ 季節の食材や調理方法	44	14%
オ 食材や栄養に関する知識の活用方法	17	5%
カ 食に関わる人々と食物への感謝の心	76	24%
キ 心と体のために、何をどう食べるか選ぶ力(食運力)	25	8%
その他	1	0%
合計	317	100%

学校調査 (70校)

5 中学校給食で特に大切にすべきと思うことは何ですか。

選択肢 (最大2つまで)	回答数	割合
ア 栄養バランスの良い献立であること	58	42%
イ 品数が充実していること	2	1%
ウ 食育の推進に繋がること	6	4%
エ 安心・安全に提供されること	48	34%
オ 配膳や後片付けなどに手間や時間がかからないこと	8	6%
カ ゆっくり食べられる時間が確保されていること	1	1%
キ 温かいものであること	5	4%
ク 安価であること	3	2%
ケ 食物アレルギーへの対応が充実していること	7	5%
コ その他	2	1%
合計	140	100%

6(2) 全員制に移行することで特に懸念する点は何ですか。

選択肢 (最大2つまで)	回答数	割合
ア アレルギーのある生徒への対応	51	38%
イ 時間割の調整	15	11%
ウ スペースの確保	9	7%
エ 生徒への指導	16	12%
オ 教職員の給食指導への理解	10	7%
カ 給食費の徴収	28	21%
キ その他	6	4%
合計	135	100%

7 全員制に移行することで特に良いと思うことは何ですか。

選択肢 (最大2つまで)	回答数	割合
ア 配膳作業等で生徒同士のコミュニケーションがとれる	8	6%
イ 栄養バランスの良い屋食が提供できる	50	39%
ウ 温かい屋食を食べさせることができる	23	18%
エ 好き嫌いをなくすことができる	4	3%
オ 保護者の負担が軽減される	43	33%
カ その他	1	1%
合計	129	100%

8(2) 今の屋食時間は自分ですか。(選択制給食実施校)

選択肢	回答数	割合
ア 10分	12	19%
イ 15分	43	68%
ウ 20分	8	13%
エ 25分	0	0%
オ 30分	0	0%
合計	63	100%

8(2) 今の屋食時間は自分ですか。(施設一体型小中学校)

選択肢	回答数	割合
ア 10分	0	0%
イ 15分	1	14%
ウ 20分	3	43%
エ 25分	2	29%
オ 30分	1	14%
合計	7	100%

8(3) 全員制での給食屋食時間はどれくらい必要だと思いますか。

選択肢	回答数	割合
ア 10分	0	0%
イ 15分	33	47%
ウ 20分	30	43%
エ 25分	6	9%
オ 30分以上	1	1%
カ 30分以上	0	0%
合計	70	100%

9 中学校給食を通して特に子どもに学んでほしいことは何ですか。

選択肢 (最大2つまで)	回答数	割合
ア 食事を通じてフランスよき栄養を摂取することの大切さ	59	45%
イ 地域の郷土料理・特産物など、日本の食文化	15	11%
ウ 食料の生産・流通・消費など食事ができるまでの流れ	3	2%
エ 季節の食材や調理方法	10	8%
オ 食材や栄養に関する知識の活用方法	12	9%
カ 食に関わる人々と食物への感謝の心	16	12%
キ 心と体のために、何をどう食べるか選ぶ力(食通力)	16	12%
その他	1	1%
合計	132	100%

全員制中学校給食の実施に向けた「基本的な考え方」について（素案）

全員制中学校給食検討会議での議論及び専門業者による実施方式等に係る調査、生徒・保護者・学校に対するアンケート調査などを踏まえ、本市における全員制中学校給食の基本方針となる「基本的な考え方」について、次のとおり定めます。

1 安全・安心な給食

生徒・保護者にとって安全・安心な中学校給食を提供する。

2 栄養バランスのとれた温かい給食

成長期の中学生にふさわしい栄養バランスのとれた食事を提供するとともに、汁物の提供をはじめ、温かいものは温かいまま、できたての風味や食感を味わうことができる小学校のような温かくておいしい学校給食を実現する。

3 アレルギーの対応

除去食や代替食を充実するとともに、教職員の適切な食物アレルギーや誤食防止についての認識を一層高め、アレルギー対応食を安全に提供できるような校内体制等を整えるなど、アレルギー対応の充実を図る。

4 食育の充実

小学校から積み上げてきた食育を中学校でも継続できるよう、皆が同じものを食べ、学校給食という「生きた教材」を活用し、給食時間や各教科等での学習など学校教育活動全体として、食育の充実を図る。

5 和食を中心とした食文化を活かした献立

子どもたちが楽しく食べることができるとともに、京都の豊かな食文化を学び、次代に継承していくことができるよう、京都ならではの和食を中心とした献立の充実を図る。

6 適切な給食時間の確保や学校運営に留意した給食管理

生徒が落ち着いた雰囲気の中で食事ができ、食に関する学びが深められるようゆとりのある給食時間の確保を図る。また、全員制給食の実施に伴い、時間割の変更や学校現場の給食管理に変更が生じることから、教職員に過度な負担が生じないよう配慮する。

7 早期の実現

上記の1～6を踏まえ、可能な限り早期に全員制中学校給食の実現を図る。

8 実施方式について

実施方式については、○○○

調査結果報告書「概要版」
(全員制中学校給食の実施方式等検討調査業務)

1. 中学校給食の実施方式の比較検討

学校給食実施方式は、「中学校における自校調理方式」、「小学校を親校とした親子調理方式」、「センター方式」、「デリバリー方式」の組合せとなり、右(図1-1)のフローのとおり検討した。

1.1. 前提条件

自校調理方式と親子調理方式における調理室の設置可否は、施設台帳及び現地調査により確認を行った。

親子調理(小⇒中)方式は小学校の調理能力に余裕がある学校を対象とし、献立管理や栄養教諭による食育活動等を考慮し、区を跨いだ親子の組合せは検討しない。

センター方式は整備敷地が確定していないため、食数も踏まえ、仮に配送エリアの中心付近に二ヶ所を整備することとし、いずれの中学校でも調理後2時間以内に喫食可能なことを確認した。

事業費の算出方法は、右(表1-1)の通り。なお、整備場所等が決定していないため、自校調理方式とセンター方式の敷地に関する調査・整備等に関する費用は含めていない。

表 1-1 概算事業費の算出方法

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 算出根拠 (Calculation Basis). Rows include イニシャルコスト (Design, Construction, etc.), ランニングコスト (Cleaning, Maintenance, etc.).

算出根拠

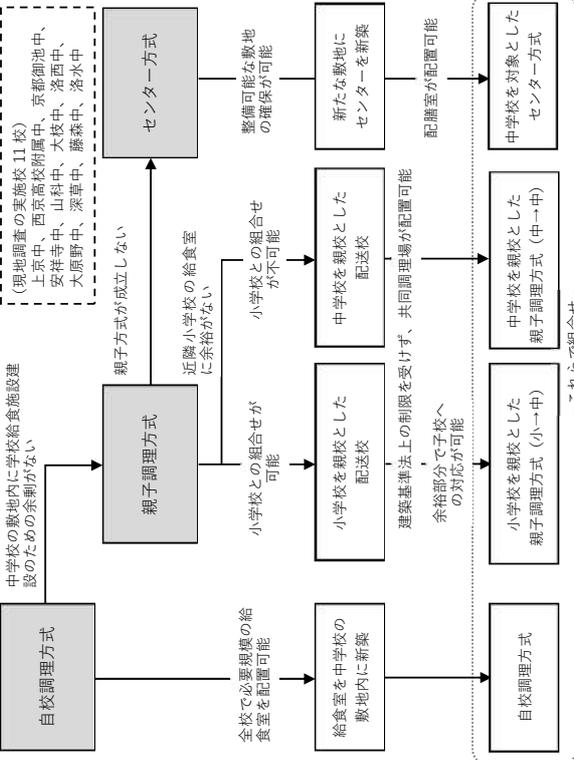
- 設計・工事監理費
・国土交通省告示第98号(平成31年)に定める算出式より算出
・近年の実績値により設定した建設単価に物価上昇を勘案し、延床面積を乗じて算出
・調理設備・備品費
・近年の実績値より設定
・民間見積もりより設定
・開業までの準備(各種設備・備品等の試運転、台帳作成、研修、給食提供訓練等)に係る費用について、近年の実績を踏まえて算出

- ランニングコスト(単年)
・民間見積もりより設定
・警備、清掃、点検、外構保守管理などについて、近年の実績を踏まえて設定
・近年の実績より初期費用に対し、修繕に対する費用割合を算出し、各実施方式で実施した場合のインシヤルコストに当該割合を乗じて算出

1.2. 比較検討

Table with 5 columns: 実施方式 (Implementation Method), 実現可能性 (実現可能性), ①自校調理方式 (Self-Cooking), ②親子調理方式 (親子調理方式), ③センター方式 (Center Method), ④デリバリー方式 (Delivery Method), ⑤自校調理+センター方式 (Self-Cooking + Center), ⑥自校調理+親子調理+センター方式 (Self-Cooking + Parent-Child + Center). Rows include 実施方式, 実現可能性, 衛生管理・管理体制 (Hygiene Management).

図 1-1 実施方式の検討フロー図



実施方式		①自校調理方式	②親子調理方式（一部自校含む）	③センター方式	④デリバリー方式	⑤自校調理+センター方式	⑥自校調理+親子調理+センター方式
〇国の配置基準に基づいた定数の栄養教諭を配置可能。 〇給食調理員との交流による食育が行いやすい。 〇中学校給食独自の献立が可能。		4,490,784 20,106,925 226,400 24,824,109 2,156,695 359,030 2,515,725 37,735,875 62,559,984	2,809,916 14,056,093 216,000 17,082,009 2,212,490 418,123 2,630,613 39,459,195 56,541,204	△栄養教諭はセンターの配置基準となり、学校への食育は当該栄養教諭を活用することとなる。 △親子（小⇒中）の場合、小学校給食と同じ献立で1.4倍の量となり、食べづらさが生じる。 △親校の既存給食室を活用する場合、アレルギー対応は小学校給食に準拠する。	△栄養教諭の定数増がない。 △個別のアレルギー対応可能な施設、設備が整った民間調理場の確保が必要。	△栄養教諭や給食調理員がいる学校とない学校で差が生じる。 △栄養教諭がいない学校で差が生じる。	△栄養教諭がいない学校とない学校で差が生じる。
イニシャル 設計・工事監理費 工事費(購置設備・配膳室等含む) 開業準備費 合計 運営・配膳・配送費 維持管理費(建物・設備等含む)		2,586,800 13,457,719 208,000 16,252,519 1,625,267 231,270 1,856,537 27,848,061 44,100,581	1,053,280 - 1,053,280 3,144,130 23,108 3,167,238 47,508,570 48,561,850	- 1,053,280 - 1,053,280 1,700,141 242,744 1,942,885 29,143,270 46,027,967	2,751,376 13,925,321 208,000 16,884,697 1,700,141 242,744 2,013,438 30,201,574 46,926,514	2,492,015 14,028,925 204,000 16,724,940 1,772,878 240,560 2,013,438 30,201,574 46,926,514	2,492,015 14,028,925 204,000 16,724,940 1,772,878 240,560 2,013,438 30,201,574 46,926,514
ランニング 合計(単年度) 15年間 総事業費 (イニシャル+ランニング) 特記事項		2,586,800 13,457,719 208,000 16,252,519 1,625,267 231,270 1,856,537 27,848,061 44,100,581	1,053,280 - 1,053,280 3,144,130 23,108 3,167,238 47,508,570 48,561,850	- 1,053,280 - 1,053,280 1,700,141 242,744 1,942,885 29,143,270 46,027,967	2,751,376 13,925,321 208,000 16,884,697 1,700,141 242,744 2,013,438 30,201,574 46,926,514	2,492,015 14,028,925 204,000 16,724,940 1,772,878 240,560 2,013,438 30,201,574 46,926,514	2,492,015 14,028,925 204,000 16,724,940 1,772,878 240,560 2,013,438 30,201,574 46,926,514

※1 実現可能性のある学校、組合せ条件
 ①自校調理方式（二条、洛南、大枝、深草、藤森、洛水）
 ②親子（小⇒中）調理方式（乾隆⇒鳥丸、御所東⇒中京、朱雀第三⇒洛風、下京沙成⇒洛友、大原野⇒大原野、日野⇒桃陵）親子（中⇒中）調理方式（二条⇒上京、大枝⇒榎原、深草⇒桃山、藤森⇒伏見）+自校調理方式（洛南、洛水）
 ③自校調理方式（洛南、洛水）+親子（小⇒中）調理方式（乾隆⇒鳥丸、御所東⇒中京、朱雀第三⇒洛風、下京沙成⇒洛友、大原野⇒大原野、日野⇒桃陵）親子（中⇒中）調理方式（二条⇒上京、大枝⇒榎原、深草⇒桃山、藤森⇒伏見）+センター方式（その他47校）
 ※2 ⑤⑥は実施方式を組み合わせることによるメリット、デメリットを記載。

1.3. スケジュール

実施方式	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R16
①自校方式 (実現可能性×)	計画	設計	設計	施工	設計	設計	計画	設計	施工
②親子（一部自校）方式 (実現可能性×)	計画	設計	設計	施工	設計	設計	計画	設計	施工
③センター方式 (実現可能性○)	事業者募集	事業者募集	設計	設計	設計	計画	計画	設計	施工
④デリバリー方式 (実現可能性×)	事業者募集	事業者募集	設計	設計	設計	計画	計画	設計	施工
⑤自校+センター方式 (実現可能性○)	計画	設計	設計	施工	設計	設計	計画	設計	施工
⑥自校+親子+センター方式 (実現可能性△)	計画	設計	設計	施工	設計	設計	計画	設計	施工

校数が多いため8グループに分けて実施することを想定
 校数が多いため2グループに分けて実施することを想定
 ◆：供用開始

2. 中学校給食の実施方式の比較検討

- 「自校調理方式」は全体の9割に当たる57校が、また、小学校から中学校、中学校から中学校へ給食を運搬する「親子調理方式（一部自校含む）」は全体の7割に当たる47校において、校内に給食施設の整備が困難なため、実現不可能である。なお、用地の取得については、場所や広さを見込むことができないため、検討していない。「デリバリー方式」についても、温かい給食を調理後2時間以内に既食可能な受託事業者の存在は可能性が低い。実現困難である。よって、実現可能性を踏まえ、京都市において全員喫食が可能なのは「センター方式」、「自校調理+センター方式」、「自校調理+親子調理+センター方式」のいずれかである。
- 次に、数値化できない要素である「定性面」の観点では、「自校調理方式」単独及び「自校調理」と他方式の組合せを採用する場合、給食が身近に感じることによる調理者との交流など、食育の面での特長は考えられるが、給食の施設や運営管理の責任者である中学校長をはじめとした各校に、施設の衛生管理等の新たな責務が付け加えられることとなり、学校の負担増に係る課題が生じる。
- 小学校調理室等を使用する「親子調理方式」に比べ、より高度な衛生管理や、中学校給食独自の献立の実施も可能であり、また、生徒への食育等細かい面では、他都市事例にもあるように、生徒が見学可能な施設上の工夫を行うことと、日頃の中学校給食を身近に感じる取組も可能となる。なお、「センター方式」単独と「自校調理方式」と「センター方式」を含む組合せでは、上記の自校調理の学校現場への課題が異なる場合が生じる可能性もある。「センター方式」の学校で、提供する献立や可能なアレルギー対応が異なる場合が生じる可能性もあることが懸念される。また、「早期実現」を比較検討した結果、総事業費において、最も安価であったのは「センター方式」について、「コスト面」や「早期実現」を比較検討した結果、総事業費において、最も安価であったのは「センター方式」であり、各方式の全市での実施方式を組み合わせたと比較検討した結果、総事業費において、最も安価であったのは「センター方式」であり、各方式の全市での供用開始時期は同じである。
- 以上のことから、本調査においては、実現可能性や定性面、事業コスト面、実施時期については総合評価により、京都市での全員制中学校給食の実施方式は、「センター方式」が最も望ましいと評価する。